

平成25年度
外部評価報告書

神戸市立工業高等専門学校

目 次

- I. 自己評価書
- II. 外部評価委員会実施要領
- III. 外部評価委員会説明資料
- IV. 外部評価委員会議事録

I . 自己評価書

平成25年度

自己評価書

本文編

神戸市立工業高等専門学校

目 次

1. 神戸市立工業高等専門学校自己評価項目	p.1
2. 自己評価の概要	p.2
【評価項目 1】 神戸高専の目的に関すること	p.2
【評価項目 2】 教育組織に関すること	p.8
【評価項目 3】 教育に関すること	p.11
【評価項目 4】 学生の受け入れに関すること	p.16
【評価項目 5】 学生に関すること	p.19
【評価項目 6】 施設・設備に関すること	p.21
【評価項目 7】 財務に関すること	p.24
【評価項目 8】 管理運営に関すること	p.26

1. 神戸市立工業高等専門学校自己評価項目

【評価項目1】 神戸高専の目的に関すること

- (1-1) 学校、学科の目的が明確に定められているか
- (1-2) 目的が学校の構成員（教職員、学生）に対して周知されており、社会に対しても公表されているか

【評価項目2】 教育組織に関すること

- (2-1) 教育活動を行う上で必要な教員が適切に配置されているか
- (2-2) 全教員の教育活動に対して学校による定期的な評価が行われおり、その結果を教員組織の見直しに反映させているか
- (2-3) 教員の採用及び昇格などにあたって、適切な基準や規定が定められており、適切な運用を行っているか
- (2-4) 教育活動を行う上で必要な教育支援者(事務職員、技術職員)が適切に配置されているか

【評価項目3】 教育に関すること

- (3-1) 教育課程が教育の目的に照らして体系的に編成されており、その内容と水準が適切であるか
- (3-2) 教育目的にふさわしい授業形態、学習指導法が整備されているか
- (3-3) 成績評価、単位認定及び進級・卒業認定が適切であり、有効なものとなっているか
- (3-4) 研究活動に対する基本方針にふさわしい研究指導が行われているか
- (3-5) 教育目的において意図している「学生が身に付ける学力・資質・能力」について教育の成果や効果があがっているか
- (3-6) 教員及び教育支援者の教育の状況について点検・評価を行い、その結果に基づいて改善・向上を図るための体制が整備されて機能しているか

【評価項目4】 学生の受け入れに関すること

- (4-1) 入学受入方針（アドミッションポリシー）が明確に定められ、公表、周知されているか
- (4-2) 入学者の選抜方法が、入学受入方針に沿って適切な方法で実施され、機能されているか
- (4-3) 実入学者数が入学定員数と比較し適正な数となっているか

【評価項目5】 学生に関すること

- (5-1) 学習を進める上での履修指導や自主学習の相談などの学習支援体制が整備され、機能しているか
- (5-2) 課外活動に対する支援体制などが整備されているか
- (5-3) 学生の生活全般（経済面、就職の相談など）に関して、支援体制が整備され機能しているか

【評価項目 6】 施設・設備に関すること

- (6-1) 教育・研究課程に対応した施設・設備が整備され、適切な安全管理の下に有効に活用されているか
- (6-2) 図書・学術資料など教育研究上必要十分な資料を有しているか
- (6-3) 教育・研究過程に対応した施設や設備の大きさや広さが、目的の意図にあった大きさになっているか

【評価項目 7】 財務に関すること

- (7-1) 教育・研究活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行できるだけの財政基盤を有しているか
- (7-2) 学校の財務に係る監査等が適正に履行されているか
- (7-3) 学校の目的を達成するために適切な支出が行われているか

【評価項目 8】 管理運営に関すること

- (8-1) 学校の目的を達成するために必要な管理運営体制及び事務組織が整備され機能しているか
- (8-2) 教育研究活動の状況や、その活動の成果に関する情報を公に社会に提供しているか

2. 自己評価の概要

【評価項目1】 神戸高専の目的に関すること

(1-1) 学校、学科・専攻の目的が明確に定められているか。

本校の目的は、学生便覧に示されており、以下の6項目で構成されている。(資料1-1-①学校の目的(学生便覧(一部抜粋))

1 本校の使命

本校は、学校教育法の定める高等専門学校として、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成すること、並びにその教育、研究機能を活用して国際港都神戸の産業及び文化の発展向上に寄与することを使命とする。

2 本校の教育方針

「人間性豊かな教育」

「基礎学力の充実と深い専門性を培う教育」

「国際性を育てる教育」

3 養成すべき人材像(準学士課程)

健康な心身と豊かな教養のもと、工学に関する基礎的な知識を身につけると同時に、創造性も合わせ持つ、国際性、問題解決能力を有する実践的技術者を養成する。

■機械工学科

数学、自然科学、情報処理技術、計測技術、電気電子技術、加工技術、設計法等の基礎技術を習得し、豊かな一般教養のもと、創造性も合わせ持つ柔軟な思考を有し、設計や製作ができる実践的技術者を養成する。

■電気工学科

数学、自然科学、情報処理技術、電磁気学、電気回路、実験等により基礎技術を習得し、豊かな一般教養のもと創造性も合わせ持ち、柔軟な思考ができる実践的技術者を養成する。

■電子工学科

数学、自然科学、情報処理技術、エレクトロニクスの基礎技術を習得し、豊かな一般教養のもと創造性も合わせ持ち、多種多様な課題を解決できる実践的技術者を養成する。

■応用化学科

数学、自然科学、情報処理技術に加え、物質の基本を理解し、新しい物質作りに応用できる基礎学力を習得し、豊かな一般教養のもと、創造性も合わせ持ち柔軟な思考ができる実践的技術者を養成する。

■都市工学科

数学、自然科学、情報処理技術、構造力学、水理学、土質力学、計画、環境に関連する科目に重点を置き、豊かな一般教養のもと、自然を活かした人間に優しい生活環境をデザインするための総合的な技術力、創造性を合わせ持つ実践的技術者を養成する。

4 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力（準学士課程の学習・教育目標）

(A) 工学に関する基礎知識を身につける。

- (A1) 数 学 工学的諸問題に対処する際に必要な数学の基礎知識を身につけ、問題を解くことができる。
- (A2) 自然科学 工学的諸問題に対処する際に必要な自然科学に関する基礎知識を身につけ、問題を解くことができる。
- (A3) 情報技術 工学的諸問題に対処する際に必要な情報に関する基礎知識を身につけ、活用することができる。
- (A4) 専門分野 各学科の専門分野における工学の基礎知識・基礎技術を身につけ、活用することができる。

(B) コミュニケーションの基礎的能力を身につける。

- (B1) 論理的説明 自分の意図する内容を文章及び口頭で相手に適切に伝えることができる。
- (B2) 質疑応答 自分自身の発表に対する質疑に適切に応答することができる。
- (B3) 日常英語 日常的な話題に関する平易な英語の文章を読み、聞いて、その内容を理解することができる。
- (B4) 技術英語 英語で書かれた平易な技術的文章の内容を理解し、日本語で説明することができる。

(C) 複合的な視点で問題を解決する基礎的能力や実践力を身につける。

- (C1) 応用・解析 工学的基礎知識を工学的諸問題に応用して、得られた結果を的確に解析することができる。
- (C2) 複合・解決 与えられた課題に対して、工学的基礎知識を応用し、かつ情報を収集して戦略を立て、解決できる。
- (C3) 体力・教養 技術者として活動するために必要な体力や一般教養の基礎を身につける。
- (C4) 協調・報告 与えられた実験テーマに対してグループで協調して挑み、期限内に解決して報告書を書くことができる。

(D) 地球的視点と技術者倫理を身につける。

(D1) 技術者倫理 工学技術が社会や自然に与える影響及び技術者が負う倫理的責任を理解することができる。

(D2) 異文化理解 異文化を理解し、多面的に物事を考えることができる。

5 養成すべき人材像（専攻科課程）

専門分野の知識・能力を持つと共に他分野の知識も有し、培われた一般教養のもとに、柔軟で複合的視点に立った思考ができ、問題発見、問題解決ができる創造性豊かな開発型技術者を養成する。

■機械システム工学専攻

数学、自然科学、情報処理技術、電気電子応用技術、加工技術、設計法等の専門技術を習得し、培われた一般教養のもと、設計や製作において複合的視点で思考、問題発見、問題解決ができる創造性豊かな開発型技術者を養成する。

■電気電子工学専攻

数学、自然科学、情報処理技術、電磁気学、電気回路、エレクトロニクス、実験等により専門技術を習得し、培われた一般教養のもと、柔軟な思考ができ、複合的視点で思考、問題発見、問題解決ができる創造性豊かな開発型技術者を養成する。

■応用化学専攻

数学、自然科学、情報処理技術に加え、物質の基本を十分に理解し、新しい物質作りに応用できる専門学力を習得し、培われた一般教養のもと、柔軟な思考ができ、複合的視点で思考、問題発見、問題解決ができる創造性豊かな開発型技術者を養成する。

■都市工学専攻

数学、自然科学、情報処理技術、構造力学、水理学、土質力学、計画、環境に関連する専門技術に重点を置き、培われた一般教養のもと、柔軟な思考ができ、複合的視点で思考、問題発見、問題解決ができる創造性豊かな開発型技術者を養成する。

6 修了時身につけるべき学力や資質・能力（専攻科課程の学習・教育目標）

(A) 工学に関する基礎知識と専門知識を身につける。

(A1) 数 学 工学的諸問題に対処する際に必要な線形代数、微分方程式、ベクトル解析、確率統計などの数学に関する知識を身につけ、問題を解くことができる。

(A2) 自然科学 工学的諸問題に対処する際に必要な力学、電磁気学、熱力学などの自然科学に関する知識を身につけ、問題を解くことができる。

(A3) 情報技術 工学的諸問題に対処する際に必要な情報技術に関する知識を身につけ、活用することができる。

- (A4) 専門分野 各専攻分野における工学基礎と専門分野の知識・技術を身につけ、活用することができる。
- (B) コミュニケーション能力を身につける。
- (B1) 論理的説明 技術的な内容について、図、表を用い、文章及び口頭で論理的に説明することができる。
- (B2) 質疑応答 自分自身の発表に対する質疑に適切に応答することができる。
- (B3) 日常英語 日常的な話題に関する英語の文章を読み、聞いて、その内容を理解することができる。
- (B4) 技術英語 英語で書かれた技術的・学術的論文の内容を理解し、日本語で説明することができる。また、特別研究等の研究に関する概要を英語で記述することができる。
- (C) 複合的な視点で問題を解決する能力や実践力を身につける。
- (C1) 応用・解析 工学基礎や専門分野の知識を工学的諸問題に応用して、得られた結果を的確に解析することができる。
- (C2) 複合・解決 与えられた課題に対して、工学基礎や専門分野の知識を応用し、かつ情報を収集して戦略を立てることができる。また、複合的な知識・技術・手法を用いてデザインし工学的諸問題を解決することができる。
- (C3) 体力・教養 技術者として活動するために必要な体力や一般教養を身につける。
- (C4) 協調・報告 特定の問題に対してグループで協議して挑み、期日内に解決して報告書を書くことができる。
- (D) 地球的視点と技術者倫理を身につける。
- (D1) 技術者倫理 工学技術が社会や自然に与える影響を理解し、また、技術者が負う倫理的責任を自覚し、自己の倫理観を説明することができる。
- (D2) 異文化理解 異文化を理解し、多面的に物事を考え、自分の意見を説明することができる。

また、修了時に身に付けるべき学力や資質・能力において、学科および専攻別の専門分野（A-4）は別途定めている。（資料1-1-②学習教育目標（学校要覧（一部抜粋）））

本校では、創設時に学校の使命を定めたが、社会貢献の重要性を認識し平成18年度に改定し、平成19年度からそれに基づいて、課程ごとの養成すべき人材像、卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力を新たに定めた。また、これは平成18年度にJABEE認定された専攻科課程の人材像や学習・教育目標とも一貫性のあるものとした。

本校の使命は、高等専門学校創設の趣旨及び学校教育法上の高等専門学校の目的も踏まえて定められたものであり、課程ごとの養成すべき人材像及び卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力は、学校教育法上の高等専門学校の目的との関連を明確にして策定されていることから、本校の目的は、学校教育法の規定からはずれるものではない。

自己評価

以上のように、学校、学科および専攻の目的等が明確に定められている。

(1-2) 目的が学校の構成員（教職員、学生）に対して周知されており、社会に対しても公表されているか

学則に掲げた本校の使命、教育方針、養成すべき人材像および卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力は、平成19年9月3日の校務運営委員会で改訂・確定され、それらが掲載された携帯版のカードを、毎年、新入生等に配布するとともに、全校集会や専攻科ガイダンスで説明することにより教職員及び学生に周知している（資料1-2-① 学校の目的を記載した携帯版カード）。また、本校 Web ページに掲載することにより、いつでも見られる状態にしている（資料1-2-② 学校の目的を掲載した Web ページ）。更に、新入生には、合格者招集日に学生便覧を用いて説明している。

卒業生、修了生の進路先である関連企業や大学等にも学校の目的等が記載されている「学校要覧」を配布している。

自己評価

以上のように、教職員や学生に対しては、本校の使命、教育方針、養成すべき人材像、卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力について、それぞれ積極的に周知を図っている。また、本校の目的は、Web ページや刊行物に掲載しているのをはじめ、オープンキャンパスや県内を中心とする中学校への訪問時、中学校校長会、中学校進路担当者説明会等での説明及び就職先の関連企業や進学先等に「学校要覧」等の刊行物を配布するなど、社会に広く公表している。

<関連資料一覧>

資料1-1-①	学校の目的（学生便覧（一部抜粋））	p.1-1
資料1-1-②	学習教育目標（学校要覧（一部抜粋））	p.1-2
資料1-2-①	学校の目的を記載した携帯版カード	p.1-6
資料1-2-②	学校の目的を掲載した Web ページ	p.1-7

【評価項目 2】 教育組織に関すること

(2-1) 教育活動を行う上で必要な教員が適切に配置されているか

一般科目担当の専任教員の構成は、高等専門学校設置基準を満たしつつ、教育課程表に配当された科目構成と比してバランスのとれた専門分野の配置となっている。同専任教員にあっては専門分野や担当時間数の均衡化にも配慮しつつ、一般科目の学習・教育目標達成のために適切な担当配置を行っている。また、専門教育においては、学習教育目標の具体的内容を各学科が設定し、それを達成するために教育課程が適切に編成されている。科目担当教員は高等専門学校設置基準の人数を満たし、専門分野を考慮して適切に配されている（資料 2-1-① 教育課程表（本科）、資料 2-1-② 教育課程表（専攻科）、資料 2-1-③ 教員一覧表）。

次に、専任教員の年齢構成においても、著しく偏ることなくバランス良く配置されている（資料 2-1-④ 年齢別・職階別教員数）。ただし、男性教員に対して女性教員の割合が少ない。そこで、平成 25 年 12 月の校務運営会議において、「神戸高専における男女共同参画に係るポジティブ・アクション」の実施を決定した（資料 2-3-① 神戸高専における男女共同参画に係るポジティブ・アクションの実施について）。

専任教員および非常勤講師が 1 人あたり担当する科目数についても、偏ることなくバランス良く配置されている（資料 2-1-⑥ 個人時間表）。

自己評価

以上のことから、本校の教育目的を達成するために必要な担当教員は適切に配置されている。

(2-2) 全教員の教育活動に対して学校による定期的な評価が行われおり、その結果を教員組織の見直しに反映させているか

全教員は、年度末に教育研究業績報告書を校長に提出し、教育や研究実績等の報告を行っている（資料 2-2-① 教育研究活動報告書 web 入力画面、資料 2-2-② 教育研究活動報告書例、資料 2-2-③ 神戸高専研究業績分類表）。その報告書を元に、校長による全教員の個人面談が実施され、教育研究活動の状況を学校として把握している。また、運営改善会議では学生の授業アンケート結果（資料 3-6-③ 授業アンケート結果）によって、教員の授業状況の確認および改善指導を行っている。

これらの結果やその他様々な状況から、問題があると認められる場合は、適宜、教員の配置の見直しを行っている。

自己評価

以上のことから、教育活動に関する定期的な評価を適切に実施する体制が整備され、

実際に評価が行われている。

(2-3) 教員の採用及び昇格などにあたって、適切な基準や規定が定められており、適切な運用を行っているか

教員の採用に関する手続きの規定は明確に定められている。公募に際しては、高等専門学校設置基準に示された職位に応じた応募資格を公募文書ではっきりと謳っている。また、面接審査では、模擬授業を課し教育能力を評価している。更に、数が少ない女性教員の採用を促すために、「神戸高専における男女共同参画に係るポジティブ・アクション」の取組を実施している（資料2-1-⑤ 神戸高専における男女共同参画に係るポジティブ・アクションの実施について）。

次に、教員の昇任・昇格の基準や手続きは内規に定められており、教員に周知している。審査に際しては、高等専門学校設置基準に定められた教員資格を基準として、独自に候補者の教育指導能力の評価も行っており、適切に運用がなされている（資料2-3-① 昇任・昇格業績評価点算定内規）。

自己評価

以上のことから、教員の採用や昇格等に関する規定などが明確かつ適切に定められ、適切に運用がなされている。

(2-4) 教育活動を行う上で必要な教育支援者(事務職員、技術職員)が適切に配置されているか

本校の事務は、庶務、学生の2つの係から構成され、教育課程の展開に直接的に関係する事務職員は学生係に配置されている。庶務係及び図書館においては、教員予算、クラス費、備品管理、施設管理等の教育支援業務を的確に実施するために、業務内容に基づく適切な人数の職員配置を行っている。

技術職員は、庶務係に所属するが業務上は各科に属し、教育・研究に関する技術支援と専門的業務を行うために、専門性を考慮して適切に配置されている。（資料2-4-① 事務分掌表）

自己評価

以上のことから、本校において編成された教育課程を展開するのに必要な事務職員、技術職員等の教育支援者が適切に配置されている。

<関連資料一覧>

資料2-1-①	教育課程表（本科）	p.2-1
資料2-1-②	教育課程表（専攻科）	p.2-7
資料2-1-③	教員一覧表	p.2-11

資料 2-1-④	年齢別・職階別教員数	p.2-17
資料 2-1-⑤	神戸高専における男女共同参画に係るポジティブ・アクションの実施について	p.2-19
資料 2-1-⑥	平成 25 年度 個人時間表	p.2-20
資料 2-2-①	教育研究活動報告書 web 入力画面	p.2-26
資料 2-2-②	教育研究活動報告書例	p.2-27
資料 2-2-③	神戸高専研究業績分類表	p.2-29
資料 2-3-①	昇任・昇格業績評価点算定内規	p.2-30
資料 2-4-①	事務分掌表	p.2-33

【評価項目3】 教育に関すること

(3-1) 教育課程が教育の目的に照らして体系的に編成されており、その内容と水準が適切であるか

準学士課程の学習・教育目標に沿って、学科ごとの教育課程が系統的に編成されている。教育課程は、各学科とも低学年に一般科目を多く配置し、学年が上がるに従って専門科目の比重が高まる楔形の科目配置となっている(資料3-1-① 一般科目と専門科目数の比率)。また、学習・教育目標と授業科目との関係を周知させるため、各目標項目とそれを達成するための開設科目が、学科ごとに系統図(授業科目の流れ)によって提示されている(資料3-1-② 科目系統図(本科))。

専攻科課程では授業科目は、内容・程度によって、一般科目、専門共通科目、専門展開科目に分類するとともに、教育の目的に照らして、必修、選択の区別を行い、各学年に必修科目、選択科目を適切に配置している(資料3-1-③ 科目系統図(専攻科))。また、学習・教育目標の達成に向けて、科目を目標毎に明確に分類し、各目標に必修科目を適宜配置することにより、教育課程が体系的に編成されている。更に、専攻科では、大学共同利用施設(UNITY)において近隣の大学と単位互換講座も開設しており、幅広い分野の学習を可能にしている(資料3-1-④ UNITY 単位互換講座(特別科目)、資料3-1-⑤ UNITY 単位互換講座(学内提供科目))。

自己評価

以上のことから、教育課程が教育の目的に照らして体系的に編成されている。

(3-2) 教育目的にふさわしい授業形態、学習指導法が整備されているか

授業は、講義、演習、実験実習より構成され、教育目標に対してバランスよく配置している(資料3-2-① 学習・教育目標ごとの講義・演習・実験実習の構成割合)。一般科目では講義が多いが、一部の理数系科目には実験実習を取り入れ、また文系科目においても教授内容に合わせて対話・討論型授業や授業を取り入れている。

情報リテラシーについては、学内作成テキストに基づき、全学科共通のテキストを用い、同一試験を行うという工夫をしている。

専門学科における実験実習科目においては、レポート作成指導、指導教官とのディスカッションや卒業研究論文の作成は、基本的に少人数で実施するという方針としている。その他、学生からの質問に答えられるよう各教員がオフィスアワーズを設定している(資料3-2-② オフィスアワーズ一覧)。さらに、試験前後で学力強化期間を行事として設定し、補講をするなど、基礎学力の定着及び不足分の補充を図っている(資料3-2-③ 平成25年度行事予定表)。

自己評価

以上のことから、教育目的にふさわしい授業形態、学習指導法が整備されている。

(3-3) 成績評価、単位認定および進級・卒業認定が適切であり、有効なものであるか

成績評価に関しては、学生便覧に「学業成績評価及び進級ならびに卒業の認定に関する規定」が掲載され、学生に配布されている。(資料3-3-① 学業成績評価及び進級ならびに卒業の認定に関する規定)。成績評価については、0点から59点の成績は「不可」とし、単位を認定しない。60点から69点を「可」、70点から79点を「良」、80点から100点を「優」と区分している。

また、教員の一方的な評価がないよう、各試験時に答案に対する学生からの意見申し立ての機会を設定している。後期定期試験では試験返却時間を別途、行事として設定している(資料3-2-③ 平成25年度行事予定表)。

進級、卒業の認定については、規定に基づき、例年、2、3月に卒業認定会議、進級認定会議が開かれ、単位認定、卒業認定、進級認定の審議が行われている。卒業認定、進級認定は、卒業認定会議、進級認定会議の審議を経て、校長が決定している。専攻科についても同様に、成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され(資料3-3-② 専攻科の授業科目の履修等に関する規定)、学生に周知されている。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されている。

自己評価

以上のことから、成績評価、単位認定および進級・卒業認定に関して適切に運用を行っている。

(3-4) 研究活動に対する基本方針にふさわしい研究指導が行われているか

卒業研究および専攻科特別研究に対しては少人数に対する研究指導を行っている。卒業研究や専攻科特別研究では、各学科で予稿集を作り発表会を行っている(資料3-4-① 平成24年度卒業研究発表会題目(機械工学科の場合)、資料3-4-② 平成24年度 専攻科特別研究Ⅱ最終発表会目次)。なお、専攻科特別研究では、専攻科特別研究Ⅰ、専攻科特別研究Ⅱの報告会を年2回実施しており、2年間で4回も研究発表を行うカリキュラムになっている。

専攻科では修了要件として、学会発表を義務付けている。本科生においても、学会や学校主催の産学官技術フォーラムにおいてポスター発表、オーラル発表を行っている。卒研生や専攻生の外部発表では、学会で受賞する者もあり、十分高いレベルであるといえる(資料3-4-③ 本科・専攻科学生の主な受賞歴一覧)。

自己評価

以上のことより、研究活動に対する基本方針にふさわしい研究指導が行われている。

(3-5) 教育目的において意図している「学生が身につける学力・資質・能力」について教育の成果や効果があがっているか

学生は学期末に科目毎にシラバスに記載されている学習・教育目標の達成状況を自己評価している(資料3-5-① シラバス見本, 資料3-5-② 学習・教育目標達成度 web 入力画面)。学習・教育目標達成度の自己評価結果は科目別に平均値として教員に示され、学生の理解状況を把握することができる(資料3-5-③ 学習・教育目標達成度評価結果画面)。また、学生の全体としての学習・教育目標の達成状況は、学習・教育目標達成度評価一覧表として、web ページから PDF 形式で出力が可能となっている(資料3-5-④ 学習・教育目標達成度評価一覧表)。

成績については、学年末学年別成績報告(資料3-5-⑤ 平成24年度 学年末学年別成績報告)に示す通り、各クラスの平均点は70点を上回っており、本科・専攻科とも、留年・退学者は一部を除いて少ない(資料3-5-⑥ 平成24年度 進級・卒業・原級留置・退学者数一覧表, 資料3-5-⑦ 進級・卒業・原級留置・退学者数の推移)。学生の就職・進学状況は非常に良く(資料3-5-⑧ 卒業生・修了生の進路状況)、就職率は他大学や他高専よりも高い水準で推移している(資料3-5-⑨ 学校別就職率の変化)。本科卒業生の進学先は、高専専攻科あるいは理工系の国公立大学である(資料3-5-⑩ 大学編入学・専攻科進学状況の推移)。就職先についても、理系分野の企業へと就職している(資料3-5-⑪ 卒業生就職先一覧)。また、専攻科においても修了生は国公立大学院や大手企業へと進路をすすめている(資料3-5-⑫ 専攻科修了生進路一覧)。

ことから、単位修得状況、進級の状況、卒業(修了)時の状況は良好であり、教育の実績・効果は上がっているといえる。また、卒業研究や特別研究の観点からも、高専の卒業研究、特別研究の報告としては一定の水準に達している(資料3-4-① 平成24年度卒業研究発表会題目(機械工学科の場合), 資料3-4-② 平成24年度 専攻科特別研究Ⅱ最終発表会目次)。

自己評価

以上のことより、本校における教育の成果や効果があがっていると言える。

(3-6) 教員及び教育支援者の教育の状況について点検・評価を行い、その結果に基づいて改善・向上を図るための体制が整備されて機能しているか

前期末および学年末の2回、学生による授業アンケートを実施している(資料3-6-① 授業アンケート web 入力画面)。その結果を教員が分析し、学科長に対して授業改善策やコメント等を提示し、教育改善に努めている(資料3-6-② 授業アンケート分析結果の一例)。また、自己評価委員会で授業アンケートの平均値を求め、学校

としての授業評価を行っている（資料3-6-③ 授業アンケート結果一覧）。同評価結果を見ると、学生の自己学習を問う項目（項目D）以外では5段階評価でほぼ4に近い値となっており、学生に高い評価を得ている。なお、授業アンケート評価が低い教員に対しては、教務主事や校長により当該教員から直接意見を聴取している（資料3-6-④ 授業改善勧告例）。他に、教員間の授業参観により、授業の相互評価できるような体制も整えている（資料3-6-⑤ 2013年度授業参観シート）。授業参観での結果を元に、各学科で教授方法について議論を行い、各教員の授業改善に努めている。

これらのアンケート結果を元に、教員の行った授業改善の取組は、毎年、その取組を学校へ報告することになっている（資料3-6-⑥ 教育改善取組のweb入力画面、資料3-6-⑦ 教育改善取組の報告件数）。それらの報告の中から取組が特に顕著なものについて、教育プログラム委員会が神戸高専教育表彰の候補者として推薦し、表を受ける教員もいる。

卒業生や修了生に対しては、卒業時に学校の満足度調査を実施している（資料3-6-⑧ 卒業生・修了生の学校満足度調査結果）。その結果より、本科卒業生も専攻科修了生も本校に対する満足度が高いことがわかる。

定期的な教員研修としては、ほぼ月に1回の割合で、内部講師や外部講師を依頼し、教員全員が参加するFD研修会を実施しており、教員の資質の向上を図っている（資料3-6-⑨ FD研修会実施テーマ一覧）。

自己評価

以上のことより、教員及び教育支援者の教育の状況について点検・評価を行い、その結果に基づいて改善・向上を図るための体制が整備され機能している。

<関係資料一覧>

資料3-1-① 一般科目と専門科目数の比率	p.3-1
資料3-1-② 科目系統図（本科）	p.3-2
資料3-1-③ 科目系統図（専攻科）	p.3-8
資料3-1-④ UNITY 単位互換講座（特別科目）	p.3-14
資料3-1-⑤ UNITY 単位互換講座（学内提供科目）	p.3-15
資料3-2-① 学習・教育目標ごとの講義・演習・実験実習の構成割合	p.3-16
資料3-2-② 平成25年度オフィスアワーズ一覧表	p.3-18
資料3-2-③ 平成25年度行事予定表	p.3-19
資料3-3-① 学業成績評価及び進級ならびに卒業の認定に関する規定	p.3-21
資料3-3-② 専攻科の授業科目の履修等に関する規定	p.3-23
資料3-4-① 平成24年度卒業研究発表会題目（機械工学科の場合）	p.3-24
資料3-4-② 平成24年度 専攻科特別研究Ⅱ最終発表会目次	p.3-26

資料 3-4-③ 本科・専攻科学生の主な受賞歴一覧	p.3-28
資料 3-5-① シラバス見本	p.3-29
資料 3-5-② 学習・教育目標達成度 web 入力画面	p.3-31
資料 3-5-③ 学習・教育目標達成度評価結果画面	p.3-32
資料 3-5-④ 学習・教育目標達成度評価一覧表	p.3-33
資料 3-5-⑤ 平成 24 年度 学年末学年別成績報告	p.3-35
資料 3-5-⑥ 平成 24 年度 進級・卒業・原級留置・ 退学者数一覧表	p.3-36
資料 3-5-⑦ 進級・卒業・原級留置・退学者数の推移	p.3-37
資料 3-5-⑧ 卒業生・修了生の進路状況	p.3-38
資料 3-5-⑨ 学校別就職率の変化	p.3-39
資料 3-5-⑩ 大学編入学・専攻科進学状況の推移	p.3-40
資料 3-5-⑪ 卒業生就職先一覧	p.3-41
資料 3-5-⑫ 専攻科修了生進路一覧	p.3-44
資料 3-6-① 授業アンケート web 入力画面	p.3-46
資料 3-6-② 授業アンケート分析結果の一例	p.3-47
資料 3-6-③ 授業アンケート結果一覧	p.3-49
資料 3-6-④ 授業改善勧告例	p.3-50
資料 3-6-⑤ 2013 年度授業参観シート	p.3-51
資料 3-6-⑥ 教育改善取組の web 入力画面	p.3-52
資料 3-6-⑦ 教育改善取組の報告件数	p.3-53
資料 3-6-⑧ 卒業生・修了生の学校満足度調査結果	p.3-54
資料 3-6-⑨ F D 研修会実施テーマ一覧	p.3-56

【評価項目 4】 学生の受け入れに関すること

(4-1) 入学受入方針（アドミッションポリシー）が明確に定められ、公表、周知されているか

本校の準学士課程の入学受入方針（アドミッションポリシー）は以下のように定められている。

1. 工学に興味を持ち、将来技術者として活躍したいと強く希望を持っていること
2. 論理的に考えることができ、実験や実習に興味を持っていること
3. 数学や理科が得意なこと、英語が好きなこと
4. 基礎的な学力を有していること

このアドミッションポリシーは、本校 web ページ（資料 4-1-① Web ページ抜粋）、学生募集要項（資料 4-1-② 平成 26 年度学生募集要項）、高専ガイド（資料 4-1-③高専ガイド 2014）、学校説明用パワーポイント資料を用いて公表している。本校 web ページについては、受験生はもちろんのこと受験生以外の幅広い方々に向けての周知を目的としている。学生募集要項については、後述する学校説明会に来られた中学校関係者に配布するほか、来られていない県内の公立中学校に対しては、全て配布している。高専ガイドについては、県内の公立中学校に対して 3 年生のクラス数分を配布している。また、後述する説明会などで出席者に対して配布している。学校説明用パワーポイント資料については、本校が主催する学校説明会や進学説明会において使用するパワーポイント用資料内に記載してあり、その都度周知している。今年度に関しては、前期には、西宮、三宮、姫路、本校、明石会場の 5 つの会場で学校説明会を開催し周知を行った。そして、夏季休業中にはオープンキャンパスを 3 日間開催し、その説明会において周知を行った。他にも、中学校の進路指導の先生方を対象にした進学説明会や、姫路、本校、西宮会場の 3 会場で行う受験生向けの進学説明会でも周知を行っている。

自己評価

以上のことより、各種資料、web ページ、外部説明会などにおいて入学受入方針について公表・周知している。

(4-2) 入学選抜方法が入学受入方針に沿って適切な方法で実施され、機能しているか

本校の入学選抜については、準学士課程、準学士課程 4 年編入、専攻科課程の 3 種類がある（資料 4-2-① 入学者選抜試験の種類）。準学士課程 1 年生への入学選抜

(資料4-1-② 学生募集要項(準学士課程))は、推薦と学力の2種類があり、推薦の割合は40%程度である。推薦に関しては、面接が適正にかつ公平に行われるように注意を払いながら、調査書、推薦書ならびに面接試験の結果をもとに判定資料を作成し、合否の判定については、校務運営の主要メンバーから構成される準学士課程の推薦入学者選抜判定会議において行う。また、学力による選抜では、試験500点、調査書250点の合計750点としている。試験については、アドミッションポリシーに記載してある数学、英語を重視し、傾斜配分を行っている。また、調査書においては理科を重視するようにしている。

次に、準学士課程4年次編入学者選抜(資料4-2-② 学生募集要項(準学士課程4年編入学))について説明する。4年次編入学は工業高校と普通高校から受入れている。合格者人数は若干名とし、当該在籍学生数を考慮しながら合格者を決定している。4年次編入試験は、小論文50点、英語100点、数学100点、専門100点(物理や化学[応用化学のみ]でも受験可能)、面接50点、調査書50点、総得点450点で行う。合格の基準に関しては450点の約6割程度である。なお、都市工学科では推薦選抜を行っており、この時の推薦基準としては学年または建設系学科において成績上位5%となっている。該当者については上記学力試験の一部(専門)を免除し、調査書及び面接(口頭試問を含む)を重視して選考を行う。点数の配分については、小論文50点、英語100点、数学100点、面接200点、調査書200点の合計650点となっている。また、機械工学科においては、学校推薦制度を設けている。

専攻科への入学選抜(資料4-2-③ 学生募集要項(専攻科課程))は、推薦による選抜(前期のみ)と学力による選抜(前期、後期)と社会人特別選抜がある。推薦選抜では、機械システム工学専攻と電気電子工学専攻は、面接(口頭試問を含む)と調査書により判定を行っている。応用化学専攻と都市工学専攻は、調査書で判定を行っている。なお、成績が優秀であったとしても、TOEICスコアが400点に満たない場合は、推薦選抜に出願できないことになっている。学力選抜では、英語100点、数学150点、専門科目200点と面接(口頭試問を含む)100点、調査書100点の総得点650点となっている。ただし、英語については試験を実施せず、2年以内に取得したTOEICスコアの点数を6で割ったものを点数としている。社会人特別選抜では、筆記試験は学力選抜に準じて実施され、面接(口頭試問を含む)では、5分間のプレゼンテーションを実施し、それらの結果を総合判定している。なお、合否の判定は入試判定会議で行う。合格のボーダに関しては650点の約6割程度である。

自己評価

以上のことから、本校で行われている各種選抜方法については、アドミッションポリシーに記載されている内容に重きをおいて行っている。このことから、選抜方法は問題なく運用・機能しているといえる。

(4-3) 実入学者数が入学定員数と比較し、適正な数となっているか

過去5年間の本科の実入学者数は、いずれも入学定員数と同じである(資料4-3-① 入学志願者状況の推移(本科)、資料4-3-② 年度別入試倍率の推移)。また、

受験倍率に関しては1.5～2.0倍程度を維持している。3年次の編入学志願者については、全体的に多いとは言えない(資料4-3-③ 編入志願者状況)。専攻科の入学志願者は、全専攻ともに定員以上であり、専攻によっては定員の2倍に近い受験者および合格者があり、十分な定員確保が行えている(資料4-3-④ 専攻科入試倍率の推移)。

自己評価

過去5年間にわたって、実入学者数と入学定員数が同じであることと、辞退者がないことから適正であるといえる。

<関連資料一覧>

資料4-1-① Web ページ抜粋	p.4-1
資料4-1-② 平成26年度学生募集要項(本科)	p.4-2
資料4-1-③ 2014年版高専ガイド	(別添)
資料4-2-① 入学者選抜試験の種類	p.4-21
資料4-2-② 学生募集要項(準学士課程4年編入学)	p.4-22
資料4-2-③ 学生募集要項(専攻科課程)	p.4-34
資料4-3-① 入学志願者状況の推移(本科)	p.4-51
資料4-3-② 年度別入試倍率の推移	p.4-52
資料4-3-③ 編入志願者状況	p.4-53
資料4-3-④ 専攻科入試倍率の推移	p.4-54

【評価項目5】 学生に関すること

(5-1) 学習を進める上での履修指導や自主学習の相談などの学習支援体制が整備され、機能しているか

本科の新生、編入生及び専攻科生の学習を進めるにあたって、それぞれの入学前後で、様々なオリエンテーション(資料5-1-① 1年生オリエンテーション実施要領)が実施され、きめ細かい指導が行われている。自主学習の支援体制としては、オフィスアワーズ(資料3-2-② 平成25年度オフィスアワーズ一覧表)が全教員に義務づけられており、個別指導の体制が整備されている。また、学生意見箱を事務室前に設置し、学生のニーズを学校が直接把握できるシステムを構築している。投書された学生の意見に対しては、原則、1ヵ月以内に関係部署がその対応について回答書を作成し、掲示板へ張り出している。

自己評価

以上のことより、本科ではクラス担任、専攻科では専攻科主任による学生への指導、相談、助言を行う体制が整備され機能している。

(5-2) 課外活動に対する支援体制などが整備されているか

クラブ活動(17の運動部、11の文化部、3つの同好会)、学生会、ロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、ソーラーカーレース等の課外活動には、学生主事室が中心となり、全教員が顧問として配置され支援している(資料5-2-① 平成25年度クラブ・同好会 顧問一覧表)。また、活動時における救急処置策も整備され機能している(資料5-2-② 緊急時の対応)。

クラブ活動では、多数の運動クラブが高専全国大会に出場し、毎年、優秀な成績を収めている(資料5-2-③ 高専体育大会等の成績、資料5-2-④ 平成25年度 全国高専体育大会の結果)。その他、文化部の活動も盛んで、様々な大会や行事で活躍している。

自己評価

以上のことより、クラブ、学生会や各種プロジェクト等の活動に対して支援体制が整備され、機能している。

(5-3) 学生の生活全般(経済面、就職の相談など)に関して、支援体制が整備され機能しているか

本科の全学級で担任制を導入し、保護者会や個別懇談等（資料5-3-① 保護者会参加者数）を通して、学生の生活全般（経済面、進路、成績向上の相談など）を把握し、木目細かい指導を行っている。また、保護者に対しては授業公開日を設け、日頃の授業の状況を見学できるようにしている（資料5-3-② 授業公開のお知らせ、資料5-3-③ 授業公開の参加者数）。その際には、保護者アンケートを実施し、保護者の学校に対する意見も聴取し、その結果を元に改善を行っている。

特別な支援としては、学生相談室を設置、2名の教員が担当している。また、外部のカウンセラーも定期的に来校して対応している（資料5-3-④ 学生相談室の案内、資料5-3-⑤ 平成24年度 学生相談室利用状況）。また、障がいのある学生に対しては、学生相談室と連携して神戸高専障がい学生支援委員会（資料5-3-⑥ 神戸高専障がい学生支援委員会規定）が対応を協議し、授業担当者や担任が当該学生のサポートを行っている。

自己評価

以上のことより、クラス担任や専攻科主任の役割が明記され、学生の生活や経済面、進路に係わる指導、相談、助言を行う支援体制が整備され、機能している。

<関係資料一覧>

資料5-1-① 1年生オリエンテーション実施要領	p.5-1
資料5-2-① 平成25年度クラブ・同好会 顧問一覧表	p.5-2
資料5-2-② 校内事故緊急対応マニュアル	p.5-3
資料5-2-③ 高専体育大会等の成績	p.5-4
資料5-2-④ 平成25年度 全国高専体育大会の結果	p.5-5
資料5-3-① 保護者会参加者数	p.5-6
資料5-3-② 平成25年度授業公開のお知らせ	p.5-7
資料5-3-③ 授業公開の参加者数	p.5-8
資料5-3-④ 学生相談室の案内	p.5-9
資料5-3-⑤ 平成24年度 学生相談室利用状況	p.5-10
資料5-3-⑥ 神戸高専障がい学生支援委員会規定	p.5-11

【評価項目 6】 施設・設備に関すること

(6-1) 教育・研究課程に対応した施設・設備が整備され、適切な安全管理の下に有効に活用されているか

準学士課程 1～3 年の HR 教室は一般科棟 A 棟に、4～5 年は専門科講義棟に配置（資料 6-1-① 校舎配置図）され、すべての教室に空調設備が設置されている。また、専攻科の授業を行う教室（大講義室 A, B, 中講義室 1, 2, 小講義室）が専攻科棟に配置されている。さらに、合併授業や講演会等を行うことができる教室として、本部棟ホール、専攻科棟の大講義室 A, B, 専門科講義棟の合同講義室、一般科棟 B 棟の視聴覚教室、人文社会視聴覚教室がある。また、一般科棟 B 棟には、LL 教室、物理階段教室、化学階段教室、数学演習室、人文社会科演習室、国語演習室、物理実験室、光学実験室、化学実験室、測定室が配置されており、これらは主として低学年の実験や演習に活用されている。また、これらとは別に高学年や専攻科で使用する実験室・演習室、準学士課程 5 年と専攻科の学生が卒業研究や専攻科特別研究を行う実験室、卒研室が各学科棟と専攻科棟に配置されており、実験機器等（50 万円以上）の実験・実習に必要な機器が整備されている。教育・研究のためのコンピュータ環境を提供する総合情報センターが校内共同利用施設として設置されており、さらに、機械工学科棟には CAD 室、電気工学科棟には情報演習室、電子工学科棟にはソフトウェア工学実験室、都市工学科棟には情報処理室があり、専門分野ごとに特徴を持たせた情報関連教育に活用されている。また、各研究室・実験室等のコンピュータがネットワークに接続されて校内ネットワークが構成されている。体育の授業や各種運動部などが利用できる運動施設（グラウンド、プール、テニスコート、武道場、体育館、体育室、トレーニングルーム等）が整備されており、学生の健康保持のため本部棟には保健室が設置されている。

自己評価

以上のことより、本校の施設、設備については、高等専門学校設置基準における基準を満たし、整備されており有効に活用されている。

改善事項

(1) 現在の校舎に移転してから約 24 年が経過し、18 年前には阪神淡路大震災の被害を受けたこともあり、一部の外壁のはがれや地盤沈下による段差等も見られる。今後は、計画的に予防保全的改修に取り組んでいく必要がある。

(2) バリアフリー化への配慮という点は、身体障害者用の設備として、スロープ、身体障害者用トイレ、スライドドアを設置し、一般科棟、専門科棟、専攻科棟に各 1 基ずつエレベータが設置されているものの、校内にはまだ施設内外問わず大小様々の段差が残されており、これらについても改善を行っていくことが必要である。

(6-2) 図書・学術資料など教育研究上必要十分な資料を有しているか

図書館(981m²)には、蔵書約8.1万冊(和書7.7万冊,洋書0.4万冊),学術雑誌約144種,視聴覚資料(CD,カセットテープ,ビデオテープ,DVD)約1550タイトルがある(資料6-2-① 図書館の概要)。平成15年4月から図書館の電子システムが稼働し,貸出・返却・蔵書検索等が容易になったため一時は利用者が増加したが,近年は,利用者が減少している(資料6-2-② 平成24年度図書館の利用統計,資料6-2-③ 図書館利用実績の推移)。また,図書館では,個人(随時ならびに各クラス(年に一度)から購入希望図書を募ったり,平成25年度からは学生によるブックハンティングを実施するなどして,教員のみならず学生からの要望に応えた図書の購入を行っている。

自己評価

以上のことより,図書・学術資料など十分な資料を有している

(6-3) 教育・研究過程に対応した施設や設備の大きさや広さが,目的の意図にあった大きさになっているか

ホームルーム教室の面積67m²は,建設当時の設置基準を満たしている。また,合併授業や講演会等を行うことができる教室として,本部棟ホール,専攻科棟の大講義室A,B(AとBは可動式のパネルで仕切られているのでひとつの特大の講義室として使用可),合同講義室,視聴覚教室,人文社会視聴覚教室が配置されている。また,主に低学年の実験や演習用の教室として,LL教室,物理階段教室,化学階段教室,数学演習室,人文社会科演習室,国語演習室,物理実験室,光学実験室,化学実験室,測定室などが配置されている。総合情報センター(資料6-3-① 総合情報センターの概要)には,学生の演習室として,PC50台が設置された教室が2室あり,1クラス一斉授業で学生1人1台ずつの演習環境を提供している。また,実験実習や卒業研究など少人数の演習が行える小演習室には,PC21台が設置されている。演習室は放課後に開放され,学生は授業の演習の続きやインターネットの利用などを行うことができる。さらに,長尺プリンタシステム,ネットワークスキャナおよびデジタルビデオ編集システムなどが備えられており,これらを活用した情報リテラシー教育,プログラミング教育,各学科の情報関連専門教育などが行われているとともに,クラブ活動(電子計算機部)や公開講座にも活用されている。図書館には自習スペースとしての閲覧席が76席あり,その他にCD,カセットテープ,ビデオテープの館内視聴ができるAVコーナーがあり,1人席のオーディオ・ブースが1個,4人席のビデオブースが9個ある。また,情報端末が16台設置され,学生は昼休みなどに自由に利用でき,就職・進学等の各種情報収集に役立っている。開館時間は平日の8:40~18:00(学則に定める休業期間中は8:40~17:00)であり,中学生以上の市民の方への利用にも門戸を拓けている。また,学生が利用できる食堂(497m²)および学生ホール(購買部)や運動施設(グラウンド25,800m²,25mプール,テニスコート6面,武道場,体育館,体育室,トレーニングルーム等)も整備されている。

また、平成 25 年には、本校の創立 50 周年記念事業の一環として、一般科棟 A 棟の 1 F ピロティ一部に六神ホールが新たに設置された。本ホールは、学生の自習室として解放しており、多くの学生が利用している。

自己評価

以上のことから、教育・研究過程に対応した施設や設備の大きさや広さが、おおむね目的の意図にあった大きさになっている。

改善事項

国立高専では 80m² を基準に順次 HR 教室の改修が進められており、本校もその狭小さを解消するとともに、教室の学修環境（換気，採光，照明など）を学校環境衛生基準に照らして点検・改善していく必要がある。

< 関連資料一覧 >

資料 6 - 1 - ① 校舎配置図	p.6-1
資料 6 - 2 - ① 図書館の概要	p.6-2
資料 6 - 2 - ② 平成 24 年度図書館の利用統計	p.6-3
資料 6 - 2 - ③ 図書館利用実績の推移	p.6-4
資料 6 - 3 - ① 総合情報センターの概要	p.6-6

【評価項目 7】 財務に関すること

(7-1) 教育・研究活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行できるだけの財政基盤を有しているか

本校は、神戸市立の工業高等専門学校として「神戸市立学校設置条例」により設置された「公の施設」であり、学校の目的に沿った教育研究活動のための資産である校地、校舎等を占有使用しており、その所有権は神戸市が持っている。また、運営に関する経費は神戸市の予算で措置されており、本校としての債務はない。本校の運営は、神戸市の一般財源を基本として毎事業年度ごとに市会で議決される神戸市予算に計上されている（資料 7-1-① 平成 25 年度神戸高専予算概要）。なお、本校の収入としては授業料等の自己収入（資料 7-1-② 本校の自己収入）と科学研究費（資料 7-1-③ 科学研究補助金獲得状況、資料 7-1-④ 科学研究費補助金申請率の推移、資料 7-1-⑤ 科学研究費獲得状況の他機関との比較）や受託研究費、共同研究費等の外部資金（資料 7-1-⑥ 外部資金獲得状況）がある。

自己評価

本校は、神戸市の公の施設として「神戸市立学校設置条例」により設置され、本校の目的に沿う実践的技術者、開発型技術者を育成するための教育研究活動を安定して遂行できる校地（土地）、校舎（建物）等の資産を占有使用しており、神戸市の予算で運営されているため、本校独自の債務はない。また、本校の予算は、事業年度ごとに神戸市予算として安定的に措置されており、教育研究活動を行うための経常的収入が継続的に確保されている。

改善事項

更に科学研究費及び共同研究費等の外部資金の獲得に向けた取り組みが必要である。

(7-2) 学校の財務に係る監査等が適正に履行されているか

神戸市の財政事務や経営にかかる事業の管理が、法令等に基づき適正に行われているかなどについて、監査事務局が「財務定期監査」（地方自治法第 199 条第 1 項、第 4 項）を実施している。また、市の自主監査要綱（資料 7-2-① 自主監査要項）に基づき、毎年課長級職員が点検者となり現金取り扱い事務や各所属の事務について自主監査を実施するとともに、自主監査実施後、教育委員会内において、他の課長級による相互監査を実施（資料 7-2-② 平成 24 年度自主監査実施報告書）するなど財政事務の適正化を図っている。

自己評価

監査事務局による監査及び教育委員会・神戸高専内における自主監査等により、財務に係る会計監査等が適正に行われている。

(7-3) 学校の目的を達成するために適切な支出が行われているか

神戸高専における毎事業年度の収支予算・決算は、市会の予算・決算特別委員会でも慎重に審議された後、それぞれ議決・認定されている。平成25年度学内予算配分(資料7-1-①)は、神戸市財政が厳しい中職員費は所要額が確保されており、一般管理費が大幅に減額される中、教務費や研究振興費等は微減である。また、高専教育充実設備費として神戸市から配分される予算は、校長の了解のもと教務主事を中心に各科主任が協議し、主に大型設備の充実を図るため、平成24年度に5ヵ年計画を策定し、重点的な資源配分に努めている(資料7-3-①平成22年度第2回予算委員会資料)。

なお、決算状況(資料7-3-②平成24年度神戸高専決算概要)は、毎年度神戸市会の承認を得ている。

自己評価

物件費のうち、一般管理費が大幅に減額される中、教務費や研究振興費等は微減である。高専教育充実設備費の学内配分も、各科主任協議より重点的な資金配分を行っており、教育研究活動に対して適切に資源配分している。なお支出は適正に予算管理され、過大な支出超過となっていない。

<関係資料一覧>

資料7-1-① 平成25年度神戸高専予算概要	p.7-1
資料7-1-② 本校の自己収入	p.7-2
資料7-1-③ 科学研究費補助金獲得状況	p.7-3
資料7-1-④ 科学研究費補助金申請率の推移	p.7-4
資料7-1-⑤ 科学研究費獲得状況の他機関との比較	p.7-5
資料7-1-⑥ 外部資金獲得状況	p.7-7
資料7-2-① 自主監査要項	p.7-8
資料7-2-② 平成24年度自主監査実施報告書	p.7-11
資料7-3-① 平成22年度第2回予算委員会資料	p.7-14
資料7-3-② 平成24年度神戸高専決算概要	p.7-15

【評価項目 8】 管理運営に関すること

(8-1) 学校の目的を達成するために必要な管理運営体制及び事務組織が整備され機能しているか

校務組織図(資料8-1-① 平成25年度校務組織図)に示すように、本校の校務組織は校長の下に、教育担当、研究担当、学生担当の3副校長、学科長、センター長、室長、事務室長が配置され、各種会議や委員会の運営を行っている。特に本校の運営に対して重要な会議や委員会については、校長が委員長を務める直轄の組織として配置されている。各委員会の構成メンバーは、「平成25年度校務運営組織及び校内委員会一覧」(資料8-1-② 平成25年度校務運営組織及び校内委員会一覧)に示す通りである。各種会議や委員会で議論された事項は(資料8-1-③ 役割分担まとめ)、校長が議長を務める「校務運営会議」で協議あるいは報告が行われる。「校務運営会議」での議事録は、各学科長を通じて学科の会議で報告され、各教員に周知している。また、特に重要な事項については、月に1回開催される教官会議で、校長あるいは副校長から各教員へ報告を行っている。

次に、本校はPDCAサイクル図(資料8-1-④ PDCAサイクル図)によって運営およびその改善を行っている。まず、「教務主事室」、「学生主事室」、「教育プログラム委員会」および各センターの運営委員会で年度計画等が提示される。その計画に基づいて、各委員会や教員が実務を行う。実施された事項について、「自己評価委員会」で自己点検を行う。自己点検された結果は、「運営改善会議」で確認され、問題点が見つかった場合は、「校務運営委員会」で報告し、担当部署に改善を指示する。また、学校の長期的な計画等については、校長の直轄委員会である「将来検討委員会」で議論が行われる。なお、平成26年からは、校務組織の見直しがあり、3副校長を軸にした体制へと変更される。また、グローバル化への対応として、海外との交流活動を更に活発化させるために国際交流委員会を国際協働研究センターへと改組する(資料8-1-⑤ 平成26年度校務組織図)。

自己評価

本校の校務組織は、校長のリーダーシップの下で、効果的な意思決定を行える体制となっている。また、継続的に学校運営を改善するためのPDCAサイクルも整備されており、十分に機能している。

(8-2) 教育研究活動の状況や、その活動の成果に関する情報を公に社会に提供しているか

本校の教育研究活動の状況や成果は、本校のウェブページ、学校要覧、高専ガイド等に掲載し、広く公表している。各情報の公開状況を資料8-2-①に示す。

自己評価

教育研究活動の状況や、その活動の成果に関する情報を公に社会に提供していると言える。

<関係資料一覧>

資料 8-1-① 平成 25 年度 校務組織図	p.8-1
資料 8-1-② 平成 25 年度校務運営組織及び校内委員会一覧	p.8-2
資料 8-1-③ 役割分担まとめ	p.8-3
資料 8-1-④ P D C A サイクル図	p.8-6
資料 8-1-⑤ 平成 26 年度 校務組織図	p.8-7
資料 8-2-① 情報公開の状況	p.8-8

Ⅱ．外部評価委員会実施要領

外部評価委員会実施要領

■ 日 時：平成26年2月3日（月） 13：30～17：15

■ 場 所：神戸高専本部棟第1会議室

■ 委 員：

	氏 名	所 属
委員長	太田 勲	兵庫県立大学副学長
委員	大村 直人	神戸大学大学院工学研究科応用化学専攻教授
委員	沖村 孝	建設工学研究所常務理事
委員	京兼 純	国立高専機構理事
委員	村元 四郎	村元工作所特別顧問
委員	大前 俊之	神戸信用金庫
委員	森 啓二	神戸市立本多聞中学校長
委員	菅野 孝	六神会会長

■ スケジュール：

13:30-13:40 開会挨拶（伊藤校長）

13:40-15:00 校内見学（案内：電子 藤本，応化 下村先生）
外部評価委員，伊藤校長，林事務室長，橋本

<順路>

13：40：本部棟、都市工学（卒業研究発表ホール）
（途中 専攻棟→食堂経由）

13：55：一般科（応用化学3年・英語）

14：05：電気工学科（電気工学科3年 電気磁気Ⅰ）
（途中 総合情報センター→図書館経由）

14：25：応用化学科（応用化学5年・物理化学Ⅰ）

14：35：電子工学科（卒業研究）

14：45：機械工学科（卒業研究）

15:00-15:15 休憩

15:15-16:00 自己評価書説明（電子 橋本）
（これ以降，校務運営会議委員参加）

16:00-17:00 質疑・応答および意見聴取

17:00-17:15 閉会挨拶

Ⅲ. 外部評価委員会説明資料

神戸高専の現状

1. 神戸高専の概要
2. 神戸高専の教育
3. 神戸高専の設備・施設
4. 課外活動
5. 卒業・修了後の進路
6. 地域貢献・国際交流
7. 研究活動
8. 自己評価および改善

 神戸市立工業高等専門学校



高等専門学校とは？

■高等専門学校とは

- 5年制の**高等教育機関**
- 現在、**専攻科設置**で更に2年
- **実践的エンジニア**の養成
- 15歳からの**早期一貫教育**

■全国の高専数

国立:51校 (国立高専機構)
公立:3校 (神戸, 大阪, 東京)
私立:3校

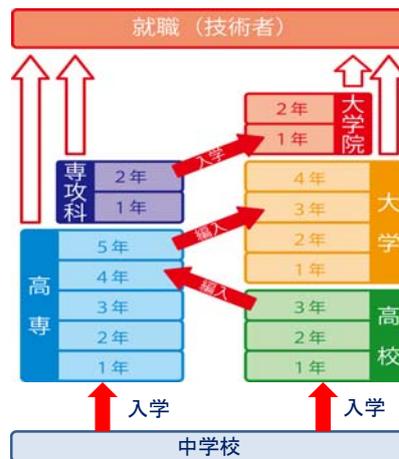
■統計データ(2010年4月)

学生数:約59,500人
教員数:約4,300人
職員数:約2,500人



神戸市立工業高等専門学校

■高等専門学校の多彩な進路



神戸高専の沿革



1963年 神戸市立六甲工業高等専門学校設置(舞子台)
(機械工学科・電気工学科・土木工学科・工業化学科)

1966年 「神戸市立工業高等専門学校」
に名称変更

1988年 「電子工学科」の新設

1990年 研究学園都市に移転

1994年 「土木工学科」を「都市工学科」に科名変更

1998年 専攻科設置

2005年 「工学系複合プログラム」JABEE認定

2013年 創立50周年



神戸市立工業高等専門学校

神戸高専の教育方針



■ 人間性豊かな教育

- ・ 心身の調和のとれた、たくましい感性豊かな人間形成をめざして、教養教育の充実をはかるとともに、スポーツ・文化クラブ等の課外活動を振興する。

■ 基礎学力の充実と深い専門性を培う教育

- ・ 工学に関する基礎知識と専門知識を身につけ、日進月歩する科学技術に対応し、社会に貢献できる実践的かつ創造的人材を育成する。

■ 国際性を育てる教育

- ・ 国際・情報都市神戸にふさわしい高専として、世界的視野を持った、国際社会で活躍できる人材を育成する。



神戸市立工業高等専門学校

教育プログラム修了時に身につけるべき学力 や資質・能力



※教職員・学生に学習教育目標を明記した携帯用カードを配布(周知徹底)



神戸市立工業高等専門学校

神戸高専の学科構成および定員



【現員】	本科	専攻科	合計
(男子)	1027人	75人	1196人
(女子)	169人	0人	169人
(合計)	1196人	75人	1271人

※2013年4月1日現在



神戸市立工業高等専門学校

職階別教職員数および事務職員数



区 分		現 員	学生定員 /人数	区 分		現 員	学生定員 /人数
教育 職員	校長	1(0)	12.9	事務室 職員	事務職員	20	36.3
	教授	46(2)			技術職員	16	
	特任教授	2(0)			計	36	
	准教授	34(3)					
	講師	6(0)					
	助教	5(0)					
	計	94(5)					

()内は女性教員で内数

平成25年度より、女性教員の積極的な採用を目的とした
ポジティブアクションを実施



神戸市立工業高等専門学校

教員の年齢構成



■ 年齢別教員数(平成25年度)

年齢区分(才)	一般科	機械工学科	電気工学科	電子工学科	応用化学科	都市工学科	合計
60以上	4(0)	2(0)	0(0)	0(0)	1(0)	1(0)	8(0)
50-59	9(1)	7(0)	2(0)	2(0)	2(0)	4(0)	26(1)
40-49	13(3)	5(0)	3(0)	3(0)	3(0)	3(0)	30(3)
30-39	4(0)	7(0)	4(0)	5(0)	4(0)	3(1)	27(1)
29以下	0(0)	0(0)	1(0)	0(0)	1(0)	0(0)	2(0)
合計	30(4)	21(0)	10(0)	10(0)	11(0)	11(1)	93(5)

※()内は女性教員で内数



神戸市立工業高等専門学校

学位取得状況



■学位取得状況

一般教養科目		専門科目					合計 (比率)
学位	一般科 (比率)	機械工学科	電気工学科	電子工学科	応用化学科	都市工学科	
博士	11 (36.7)	18	10	8	10	10	56 (88.9)
修士	15 (50.0)	2	0	2	1	1	6 (9.5)
学士	4 (13.3)	0	0	0	0	0	0 (0.0)
他	0 (0.0)	1	0	0	0	0	1 (1.6)
合計	30 (100.0)	21	10	10	11	11	63 (100.0)



神戸市立工業高等専門学校

授業について



■成績の評価区分

学業成績	評語
80~100点	優
70~79点	良
60~69点	可
0~59点	不可

- ▶ 本科 (学年制)**
 - ・総修得単位数 **167単位以上**
(一般科目81単位+専門科目86単位以上)
 - ・授業日数 **1/3以上欠席の場合は不可(未修得)**
- ▶ 専攻科 (単位制)**
 - ・総修得単位数 **62単位以上**
(一般科目8単位以上+専門科目46単位以上)

■1単位あたりの授業時間



神戸市立工業高等専門学校

神戸高专のカリキュラム構成 (電子工学科の例)



一般教養科目 専門科目



- 一般科目と専門科目をくさび型に配置
- 全学年に実験実習を配置



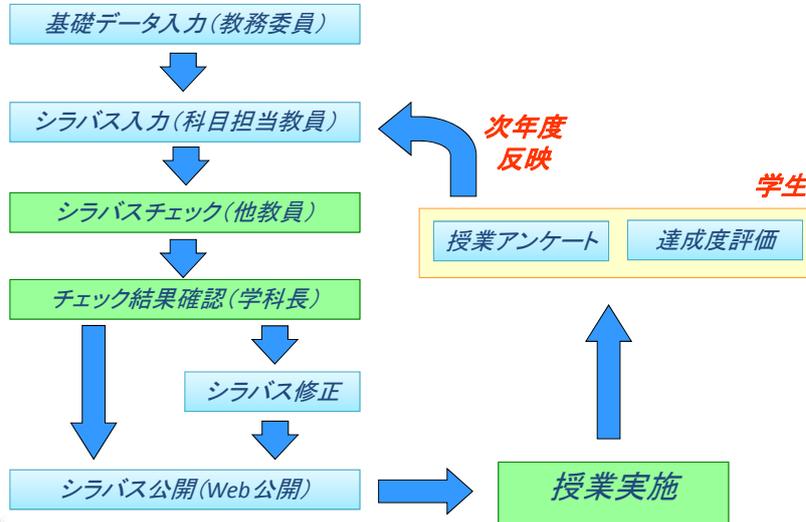
神戸市立工業高等専門学校

科目系統図(H25電子工学科の場合)



備考 七は選択科目 ★☆は並行開講科目で選択必修(各1科目)科目

シラバス(授業計画)の作成手順



神戸市立工業高等専門学校

教職員データベースシステム



※シラバス作成, 各種報告書作成, アンケート評価等に使用



神戸市立工業高等専門学校

シラバスの例1(概要)



【2010年度 授業概要】

科目	プラズマ工学 (Plasma Engineering)
担当教員	橋本 好幸 教授
対象学年等	電気電子工学専攻・2年・前期・選択・2単位
学習・教育目標	A2(30%) A4-AE2(70%)
JABEE基準1(1)	(c),(d)1,(d)2-a,(d)2-d,(g)
授業の概要と方針	プラズマは「物質の第4の状態」と呼ばれ、電子とイオンの荷電粒子からなる高温・高エネルギーの状態を示す。我々の日常生活では、蛍光灯、プラズマディスプレイ、半導体、発電や表面処理技術など至る所でプラズマが応用されている。本講義では、現在の工学において重要な存在となっているプラズマについて、その基礎特性を理論的に解説する。また、プラズマの応用技術および計測技術について紹介する。
到達目標	1 【A2】 プラズマとは何か説明できる。
	2 【A2】 プラズマ中での粒子運動が説明できる。
	3 【A2】 プラズマ中での粒子衝突について説明できる。
	4 【A4-AE2】 速度分布関数を理解し、温度の概念が説明できる。
	5 【A4-AE2】 シースが何か説明できる。
	6 【A4-AE2】 与えられたパラメータからデバイ長、電子プラズマ周波数を求めることができる。
	7 【A4-AE2】 プラズマの生成方法が説明できる。



神戸市立工業高等専門学校

シラバスの例2(評価方法)



評価方法と基準	到達目標毎	1 プラズマとは何かについて説明できるか、中間試験により評価する。
	2 プラズマ中の粒子運動について理解し、それらの動きを式で説明できるかを、中間試験およびレポートにより評価する。	
	3 プラズマ中の粒子衝突について説明できるか、また、衝突断面積や平均自由行程を計算できるかを中間試験およびレポートにより評価する。	
	4 速度分布関数について理解しているかどうか、式で表現できるかを中間試験により評価する。	
	5 シースが形成される原理を説明できるか、与えられた条件下でシース幅が計算できるかを定期試験により評価する。	
	6 デバイ長、電子プラズマ周波数を求めることができるかを定期試験により評価する。	
	7 プラズマの生成方法について概略が説明できるか、定期試験により評価する。	
	8	
	9	
	10	
総合評価	成績は、試験85% レポート15% として評価する。なお、試験成績は中間試験と定期試験の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。	
テキスト	「プラズマエレクトロニクス」:菅井秀郎著(オーム社)	
参考書	「プラズマとビームのはなし」:八井 浄, 江 偉華共著(日刊工業新聞社) 「プラズマ工学の基礎」:赤正則, 岡村克紀, 渡辺征夫, 蛭原健治共著(産業図書) 「プラズマ物理入門」:内田岱二郎訳(丸善)	
関連科目	電気磁気学I, 電気磁気学II, 高電圧工学	



神戸市立工業高等専門学校

シラバスの例3(授業計画)



8	中間試験 プラズマとは何か、プラズマの集団運動、温度の概念等について説明する。
9	デバイ遮蔽 プラズマが電気的中性を保つためのデバイ遮蔽について解説する。また、プラズマパラメータを用いてプラズマと呼ばれるための条件について解説する。
10	プラズマ振動 プラズマの集団運動の結果として生じるプラズマ振動について解説する。
11	プラズマの分布と流れ プラズマは電場や圧力によって、拡散していく。この概念について解説する。
12	固体と接するプラズマ プラズマが固体と接すると、シーブが形成される。このシーブが形成される条件について解説する。
13	プラズマの生成方法 プラズマの様々な生成方法について、概略を解説する。
14	プラズマの計測方法 ラングミュアプローブを用いて、プラズマ中の電子密度や電子温度を評価する方法について解説する。
15	プラズマの応用 プラズマの様々な分野における応用について、実例を挙げて解説する。
備考	本科目の修得には、30時間の授業の受講と60時間の自己学習が必要である。前期中間試験および前期定期試験を実施する。



神戸市立工業高等専門学校

学生達成度評価【学習支援データベース】



神戸高専学習支援システム

Education Support System in Kobe City College of Technology

学生名:2010年度

ログアウト

授業アンケートおよび達成度評価

【説明】各自が履修している科目の授業アンケートおよび目標別の達成度を入力します。下記より、評価する年度を選択してください。

- 電子工学科3年(2008年度)
- 電子工学科3年(2009年度)
- 電子工学科3年(2010年度)
- 電子工学科4年(2009年度)
- 電子工学科4年(2010年度)
- 電子工学科5年(2010年度)

学習教育目標別達成度の表示

【説明】各自の学習教育目標別の達成度を確認することができます。下記より確認する年度を選択してください。

- 電子工学科3年(2008年度)
- 電子工学科4年(2009年度)
- 電子工学科5年(2010年度)

達成度の総合評価

【説明】学習・教育目標に対する現時点での総合評価を見ることができます。

準学士課程 総合評価

研究論文の提出管理

【説明】専攻科特別研究関連の論文提出に使用します。

学習教育目標の総合評価



神戸市立工業高等専門学校

学生の教育目標の達成度評価 【学生支援データベースシステムの運用】



「5:達成できた」「4:ほぼ達成できた」「3:半ば達成できた」
「2:少し達成できた」「1:達成できなかった」
の5段階で評価してください。
2.「保健・体育」以外は、すべての学習目標に対して回答しなければ、登録できません。

5段階で入力

No.	基準	学習目標	自己評価(5段階評価)				
			1 達成 できなかった	2	3 半ば達成 できた	4	5 達成 できた
1	A4-1	SI単位系を理解し、正しい単位表示や諸計算ができるようになる。	1	2	3	4	5
2	A4-1	クーロンの法則を用いて電荷間の力を計算することができる。	1	2	3	4	5
3	A4-1	電位の定義を理解し、導体系における電位を計算することができる。	1	2	3	4	5
4	A4-1	ガウスの法則を理解し、導体系における電界を計算することができる。	1	2	3	4	5
5	A4-1	導体系における静電容量を計算できる。	1	2	3	4	5
6	A4-1	誘電体の特徴や性質について説明できる。	1	2	3	4	5
7	A4-1	誘電体中の電界が計算できる。	1	2	3	4	5
8	A4-1	誘電体を含んだ系の静電容量が計算できる。	1	2	3	4	5

シラバスに記載の学習教育目標

達成度登録



神戸市立工業高等専門学校

学生達成度評価【達成度の表示】



神戸高専学習支援システム

Education Support System in Kobe City College of Technology

学生名:2010年

ログアウト

HOME → 達成度の総合評価

■ 準学士課程総合評価

学年別の評価

年度	学科名または専攻名 学年	項目	学習教育目標別評価値																合計		
			A1	A2	A3	A4-1	A4-2	A4-3	A4-4	A4-5	B1	B2	B3	B4	D1	D2	D3	D4		D1	D2
2006	電子工学科 1年	累積値 (目標値)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	59.70 (65.0)	
		達成率	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	90.3%	
2007	電子工学科 2年	累積値 (目標値)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	56.27 (65.0)	
		達成率	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	86.6%	
2008	電子工学科 3年	累積値 (目標値)	4.98 (6.00)	1.00 (1.00)	3.94 (4.00)	5.38 (5.50)	2.00 (2.00)	2.00 (2.00)	0.00 (0.00)	0.00 (0.00)	0.00 (0.00)	2.48 (3.80)	0.00 (0.00)	3.81 (4.00)	0.00 (0.00)	0.00 (0.00)	2.04 (0.80)	0.80 (0.80)	0.64 (1.00)	29.77 (35.0)	
		達成率	83.0%	100.0%	98.5%	94.2%	100.0%	100.0%	—	—	—	65.8%	—	95.3%	—	—	255.0%	100.0%	80.0%	64.0%	85.1%
2009	電子工学科 4年	累積値 (目標値)	2.51 (3.00)	2.00 (2.00)	2.40 (2.00)	5.20 (6.40)	2.40 (2.40)	3.60 (4.00)	3.56 (3.80)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.60 (2.00)	30.12 (34.0)	
		達成率	83.7%	100.0%	80.0%	81.3%	100.0%	90.0%	93.7%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	80.0%	88.6%	
2010	電子工学科 5年	累積値 (目標値)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		達成率	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
総合評価			準学士課程総合評価																評価		
		累積値 (目標値)	7.49 (9.00)	3.00 (3.00)	6.34 (7.00)	10.48 (12.00)	4.40 (4.40)	5.60 (6.00)	3.56 (3.80)	0.00 (0.00)	2.88 (5.20)	0.00 (0.00)	5.18 (5.80)	0.16 (0.20)	0.40 (0.00)	0.00 (0.00)	3.96 (1.60)	1.60 (1.60)	1.60 (1.60)	2.24 (2.00)	174.86 (199.00)
		達成率	83.2%	100.0%	90.6%	87.3%	100.0%	93.3%	93.7%	—	74.6%	—	89.3%	80.0%	100.0%	—	96.0%	100.0%	100.0%	74.7%	87.9%

基準別の評価

准学士過程の総合評価



神戸市立工業高等専門学校

達成度評価シート(学生個人用)

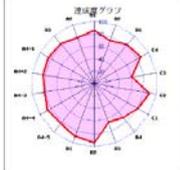


学習・教育目標の達成度評価一覧表(専攻科課程)

2009年度 電気電子工学専攻2年

担任:

項目	達成度評価(%)			
	A(91-100)	B(71-90)	C(51-70)	単位
A01 学 習 意 欲	78	0	90	81
A02 出 席 取 扱	80	0	80	75
A03 機 能 達 成	80	100	85	85
A04 課 外 活 動				
JAB(1)JAB-01 総合的 学習意欲	78	90	84	84
JAB(2)JAB-02 総合的 学習意欲	0	70	87	88
JAB(3)JAB-03 総合的 学習意欲	80	77	82	80
JAB(4)JAB-04 総合的 学習意欲	0	88	0	88
JAB(5)JAB-05 総合的 学習意欲	83	80	88	83
B01 言語コミュニケーション能力を身に付ける				
B01 読 解 的 読 書	75	80	100	85
B02 展 望 的 読 書	0	80	100	98
B03 日 本 文 書 読 解	54	74	67	65
B04 外 文 書 読 解	64	0	67	63
C01 総合的な視点で問題を解決する能力や実践力を身に付ける				
C01 応 用 解 決	80	80	0	80
C02 課 外 活 動	100	80	91	95
C03 課 外 活 動	28	70	100	81
C04 課 外 活 動	80	100	0	100
D01 倫理的視点と社会責任を身に付ける				
D01 社 会 参 与 意 識	100	80	80	76
D02 倫 理 的 意 識	90	0	60	73
D03 倫 理 的 意 識				
総合評価 (%)				81



<コメント等>



神戸市立工業

教科担当者による達成度の確認



学習教育目標達成度評価結果

シラバス記載の学習教目標

- 各到達目標の達成度の平均値は、最大評価値5を100%として計算する。
- 2006年度の専攻科科目の達成度は、専攻科1・2年が混在して評価されている。

達成度評価のクラス平均

年度	クラス	科目名	学期・選/必・単位(単位種別)	担当者	回答数
2009	D3	電気磁気学I	通年・必修・2単位(学修単位I)	橋本 好幸 教授	33

学習教育目標	達成度
(1) SI単位系を理解し、正しい単位表が正確計算ができるようになる。	81%
(2) クーロンの法則を用いて電荷間の力を計算することができる。	83%
(3) 電位の定義を理解し、導体系における電位を計算することができる。	83%
(4) ガウスの法則を理解し、導体系における電界を計算することができる。	79%
(5) 導体系における静電容量を計算できる。	82%
(6) 誘電体の特徴や性質について説明できる。	81%
(7) 誘電体中の電界が計算できる。	80%
(8) 誘電体を含んだ系の静電容量が計算できる。	81%



神戸市立工業高等専門学校

進路状況



求人求職・進学状況 (平成25年3月31日現在)

学科 / 専攻名	卒業生数 (人)	就職 (人)		進学 (人)		自営 その他 (人)	就職希望と進学希望の割合		求人件数 (件)	求人数 (人)	求人倍率 (倍)	内定率 (%)
		就職希望者	就職内定者	進学希望者	進学内定者		就職希望	進学希望				
機械工学科	75 (0)	47 (0)	47 (0)	25 (0)	22 (0)	3 (0)	65%	35%	433	455	9.7	100
電気工学科	37 (0)	18 (0)	18 (0)	19 (0)	16 (0)	0 (0)	49%	51%	415	421	23.4	100
電子工学科	34 (1)	22 (1)	22 (1)	12 (0)	10 (0)	0 (0)	65%	35%	329	335	15.2	100
応用化学科	39 (15)	21 (12)	21 (12)	18 (3)	16 (3)	0 (0)	54%	46%	123	125	6.0	100
都市工学科	40 (9)	23 (9)	23 (9)	17 (0)	17 (0)	0 (0)	58%	43%	163	169	7.3	100
合計	225 (25)	131 (22)	131 (22)	91 (3)	81 (3)	3 (0)	59%	41%	1,463	1,505	11.5	100
機械システム工学専攻	16 (2)	8 (1)	8 (1)	8 (1)	8 (1)	0 (0)	50%	50%	251	260	32.5	100
電気電子工学専攻	20 (0)	6 (0)	6 (0)	13 (0)	13 (0)	1 (0)	32%	68%	246	254	42.3	100
応用化学専攻	3 (1)	2 (1)	2 (1)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	67%	33%	73	74	37.0	100
都市工学専攻	5 (0)	3 (0)	3 (0)	2 (0)	2 (0)	0 (0)	60%	40%	98	100	33.3	100
合計	44 (3)	19 (2)	19 (2)	24 (1)	24 (1)	1 (0)	44%	56%	668	688	36.2	100

※ () は、女子で内数。 ※求人件数計は、延べ件数 (実件数 (本科) : 562社 実件数 (専攻科) : 316社)



神戸市立工業高等専門学校

本科(準学士課程)の進路状況



年度	卒業生 (人)	就職希望 者数 (人)	進学希望 者数 (人)	自営, その他 (人)	求人 件数 (件)	求人数 (人)	求人 倍率 (倍)	就職 決定率 (%)	進学 決定率 (%)	就職希望 者 (%)	進学希望 者 (%)
2003	214	123	80	11	867	915	7.4	100.0%	100.0%	57%	37%
2004	213	119	86	7	1197	1210	10.1	99.2%	100.0%	56%	40%
2005	219	114	99	6	1866	1898	16.6	100.0%	96.9%	52%	45%
2006	211	112	88	11	2431	2476	22.1	100.0%	100.0%	53%	42%
2007	215	105	100	10	2415	2487	23.7	100.0%	100.0%	49%	47%
2008	255	104	114	7	2193	2233	21.5	100.0%	100.0%	41%	51%
2009	199	102	90	7	1658	1703	16.7	100.0%	100.0%	51%	45%
2010	221	117	94	10	1318	1342	11.5	100.0%	100.0%	51%	48%
2011	226	124	89	13	1429	1449	11.7	100.0%	100.0%	58%	42%
2012	225	131	91	3	1463	1505	11.5	100.0%	100%	59%	41%
合計	2192	1151	931	85	16837	17218	15.3	98.8%	97.3%	53%	43%

【過去10年間の平均値】

就職希望者: 53%

進学希望者: 43%



神戸市立工業高等専門学校

専攻科の進路状況



年度	修了者 (人)	就職希 望者数 (人)	就職内 定者数 (人)	進学希 望者数 (人)	進学内 定者数 (人)	自営, その他 (人)	求人 件数 (件)	求人数 (人)	求人 倍率 (倍)	内定率 (%)	進学決 定率 (%)	就職希 望者(%)	進学希 望者(%)
2003	23	10	10	11	11	2	289	309	30.9	100%	100%	43%	48%
2004	41	20	20	21	20	0	393	395	19.8	100%	95%	49%	51%
2005	34	14	14	20	20	0	701	708	50.6	100%	100%	41%	59%
2006	35	16	14	18	17	1	1042	1069	66.8	88%	94%	46%	51%
2007	41	20	20	20	20	1	1069	1090	54.5	100%	100%	49%	49%
2008	36	19	19	15	15	2	896	909	47.8	100%	100%	53%	42%
2009	39	10	10	25	25	4	889	915	91.5	100%	100%	26%	64%
2010	44	14	14	26	26	3	678	678	55.0	100%	100%	32%	61%
2011	35	13	13	21	21	1	740	741	57.0	100%	100%	38%	62%
2012	44	19	19	24	24	1	668	688	36.2	100%	100%	44%	56%
合計	372	155	153	201	199	15	7365	7502	51.0	98.8%	98.9%	42%	54%

【過去10年間の平均値】

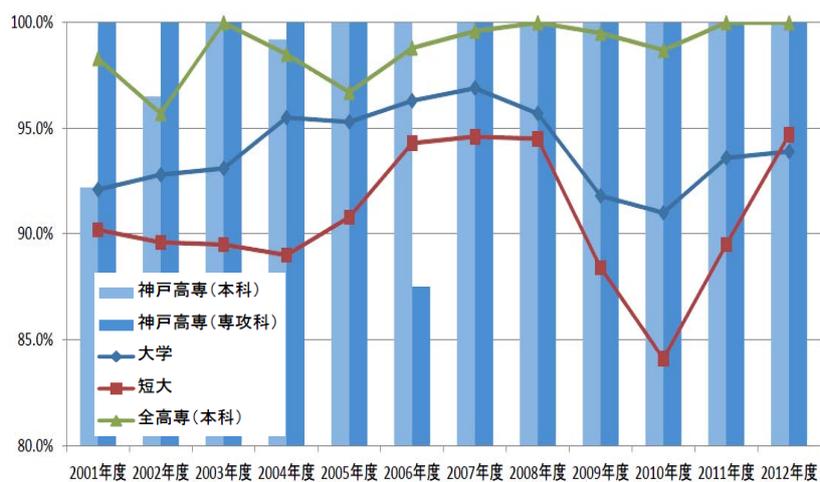
就職希望者:42%

進学希望者:54%



神戸市立工業高等専門学校

他高等教育機関との就職決定率の比較



※他機関のデータは、政府統計e-Statから抜粋



神戸市立工業高等専門学校

入学者受入方針(アドミッションポリシー)



【本科(準学士課程)】

1. 工学に興味を持ち、将来技術者として活躍したいと強く希望を持っていること
2. 論理的に考えることができ、実験や実習に興味を持っていること
3. 数学や理科が得意なこと、英語が好きなこと
4. 基礎的な学力を有していること

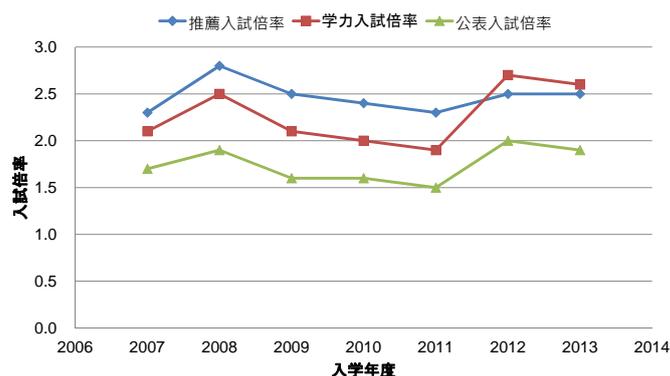
【専攻科(専攻科課程)】

1. 総合的な基礎学力を有し、数学や英語が得意なこと
2. 各専門分野(機械工学、電気工学、電子工学、応用化学、都市工学)の基礎知識を有し、さらに専門性を深めることに熱意を持っていること
3. 他分野の技術にも興味を持ち、複合的な視点で問題発見と問題解決することに意欲的なこと



神戸市立工業高等専門学校

入学試験の状況(本科)



※算出方法

推薦入試倍率 = 推薦入試志願者数 / 推薦入試合格者数

学力入試倍率 = 学力入試受験者数 / (定員 - 推薦入試合格者数)

公表入試倍率 = (推薦入試合格者数 + 学力入試受験者数) / 定員



神戸市立工業高等専門学校

入学試験の状況(専攻科)



専攻	年度	2009	2010	2011	2012	2013	合計	
合計 (定員24)	前期	受検者数	35	34	45	39	43	196
		合格者数	24	27	33	29	30	143
		倍率	1.46	1.26	1.36	1.34	1.43	1.37
	後期	受検者数	17	23	21	19	11	91
		合格者数	12	14	11	10	6	53
		倍率	1.42	1.64	1.91	1.90	1.83	1.72
	計	合格者数	36	41	44	39	36	196
		定員充足率	1.50	1.71	1.83	1.63	1.50	1.63



神戸市立工業高等専門学校

課外活動【運動系クラブの実績】



年度	2009	2010	2011	2012	
全国大会 (獲得数)	出場	26	24	21	25
	優勝	3	5	3	4
	2位	3	1	4	3
	3位	5	7	4	4
近畿大会 (獲得数)	優勝	18	24	28	24
	2位	19	19	18	22
	3位	20	11	17	17

■2013年度 全国大会出場

硬式野球(優勝), バスケット男子(3位),
バスケット女子, 陸上硬式, ソフトテニス(団体優勝),
テニス, 卓球(団体3位), 水泳(団体優勝),
ラグビー部



神戸市立工業高等専門学校

課外活動【文化系クラブの実績】



■2012年度の活動

自然科学部:金環日食@スクール
 レスキューロボットコンテスト競技会本選出場
 「ベストパフォーマンス賞他を受賞」
 電気工学実験部:ロボカップJAPANオープン2013出場
 ソーラーカー部:ソーラーカーレース鈴鹿2012出場
 その他 吹奏学部定期演奏会、高専ロボコン、プロコン、
 デザコン等活躍中



神戸市立工業高等専門学校

神戸高専の産学連携 「地域協働研究センター」



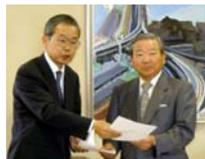
■産学連携

- 産学官技術フォーラム
- 産学官合同見学会
- 技術懇談会
- 技術相談
- 図面の見方セミナー
- ひょうご神戸産学学官アライアンス
- 人材育成事業
- イブニングセミナー
- 神戸信用金庫との産学連携協定イブニングセミナー
(平成23年5月18日締結)



■公開講座

- ものづくり夏期公開講座
- 出前授業
- ファーストレゴリーグ
- 東町小学校バレーボール指導
- UNIFYU公開講座
- 出前公開講座
- レスキューロボットコンテスト
- 冬季公開講座 等



神戸市立工業高等専門学校

その他産学連携事業



■ 技術相談

	平成19年度	平成20年度	平成21年度
技術相談件数	76件	84件	118件

■ 神戸リエゾン・ネットワーク事業

平成14年度～

神戸リエゾン・ラボ事業「神戸高专技術懇談会」

図面の見方セミナー, 図面セミナー, 機械図面の見方講習会

■ 若手技術者育成講座

※経済産業省補助事業(平成18～20年度)として始まる

平成21年度～

機械加工と材料特性基礎コース

シーケンサを用いた制御装置設計基礎コース



神戸市立工業高等専門学校

国際交流活動について(1)



2013年7月

北カリフォルニア日本文化コミュニティセンター生徒との来校交流



神戸市立工業高等専門学校

国際交流活動について(2)



外務省JENESYS2.0プログラムに基づく米国テキサス生徒との来校交流
(米国テキサス州ヒューストンのWestside High School)



神戸市立工業高等専門学校

国際交流活動について(3)



外務省JENESYS2.0プログラムに基づく米国テキサス生徒との来校交流
(ASEAN, Oceania, India, East Timor大学生)



神戸市立工業高等専門学校

国際交流活動について(3)



外務省Kakehashi Project(北米地域との青少年交流プログラム)
 本校学生:23名, 教員:2名の北米派遣
 日程:2014年1月12日~25日

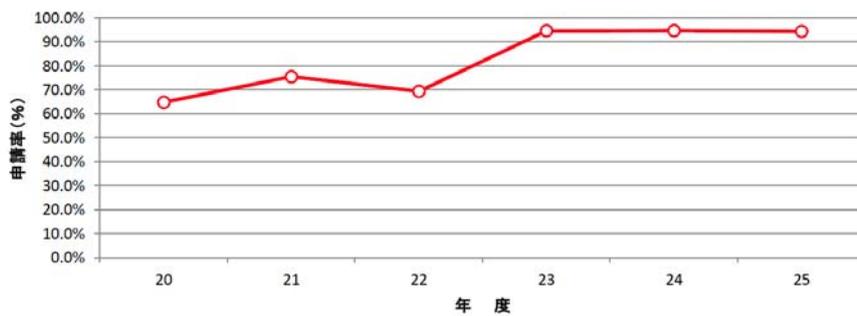


神戸市立工業高等専門学校

科研費の応募状況



科研費申請率の年度推移



神戸市立工業高等専門学校

科研費獲得状況



年度	交付額	応募件数 交付件数	特定領域 研究(継 続)	基盤A	基盤研究(B)		基盤研究(C)		萌芽研究	若手研究(B)	若手スター トアップ
					一般	一般	企画調査				
H20	17,004,000	58	1	0	2	22	0	9	19	5	
		10	0	0	1	4	0	0	3	2	
H21	2,028,000	64	0	0	2	27	0	6	26	3	
		12	0	0	1	6	0	0	4	1	
H22	31,850,000	60	0	0	0	24	0	7	26	3	
		16	0	0	1	9	0	0	6	0	
H23	24,700,000	78	0	1	2	42	0	7	25	1	
		17	0	0	1	9	0	1	6	0	
H24	26,130,000	83	0	0	2	47	0	4	27	3	
		17	0	0	0	11	0	0	6	0	



神戸市立工業高等専門学校

科研費獲得状況の他との比較



■配分額別推移

年度		19	20	21	22	23	24
神戸 高専	直接経費(千円)	18,360	10,380	15,000	26,500	19,800	21,600
	間接経費(千円)	4,770	3,114	4,500	7,950	5,940	6,480
	総額(千円)	23,130	13,494	19,500	34,450	25,740	28,080
	全高専での順位(位)	6	28	10	5	12	9
教員1人あたりの配分額(千円)		246	144	207	363	274	296
全高専配分総額(千円)		793,560	798,837	755,549	817,890	1,099,865	1,086,241
全教員1人当たりの配分額(千円)		178	180	172	187	252	250
全高専平均配分額(千円/校)		12,799	13,096	12,592	14,349	19,296	19,057

■採択件数別推移

年度		19	20	21	22	23	24
神戸 高専	件数(件)	9	9	11	16	18	19
	全高専での順位	22	19	11	4	5	5
	教員数に対する採択率(%)	9.6%	9.6%	11.7%	16.8%	19.1%	20.0%
全高専総採択件数(件)		522	505	468	534	593	691
全教員に対する採択率(%)		11.7%	11.4%	10.6%	12.2%	13.6%	15.9%
全高専平均採択件数(件/校)		8.4	8.3	7.8	9.4	10.4	12.1



神戸市立工業高等専門学校

授業アンケート結果



- 毎年、全授業で実施
- 1(最悪)～5(最良)の5段階評価
- 1の場合は、その理由コメント入力
- 学習支援データベースで入力
- アンケート結果については、教員がコメントし、結果を校内webに開示
- 評価が悪い授業については校長より授業改善指示

- 設問A** この授業はわかりやすかったですか (話し方、板書、ノート時間、熱意)
- 設問B** この授業の工夫や準備は十分行われていましたか (準備、点検、理解・技能、アフターケア)
- 設問C** この授業の進め方や評価方法は適切でしたか (シラバス、進み具合、質問への対応、試験)
- 設問D** あなたはこの授業にまじめに取り組みましたか (集中度、質問、予習・復習)
- 設問E** この授業は総合的に見て良いと評価できますか (内容、興味・意欲、達成感)

【本科】

年度	設問A	設問B	設問C	設問D	設問E
2012	3.86	3.89	3.94	3.25	3.93
2011	3.94	3.96	4.01	4.08	4.03
2010	3.89	3.92	3.97	4.07	4.00
2009	3.81	3.85	3.88	4.00	3.92
2008	3.73	3.77	3.82	3.93	3.85

【専攻科】

年度	設問A	設問B	設問C	設問D	設問E
2012	4.04	4.11	4.14	3.63	4.11
2011	4.10	4.13	4.14	4.24	4.17
2010	4.05	4.13	4.15	4.27	4.20
2009	4.02	4.03	4.07	4.28	4.10
2008	3.91	3.98	4.07	4.13	4.11

※2012年度より設問Dは、自己学習時間を問う設問に変更
(1: 15時間以下, 2: 15～30時間, 3: 30～45時間, 4: 45～60時間, 5: 60時間以上)



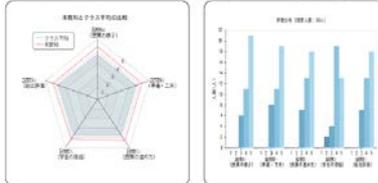
神戸市立工業高等専門学校

授業アンケート結果(教科別)



0000年度 授業アンケート集計結果

クラス	教科名	必修・選択	単位数	学期
0	000000	必修	2単位	通年



本教科と当該学年の各設問別評価値の比較

設問	A (授業の様子)	B (準備・工夫)	C (授業の進め方)	D (学生の参加)	E (総合評価)
本教科	4.30	4.29	4.29	4.13	4.29
当該学年	3.71	3.76	3.75	3.76	3.79
当該学年平均	3.72	3.74	3.79	3.90	3.82

結果の分析

対応策

その他



神戸市立工業高等

教育研究活動報告書(年度末)



資料 2-2-②(1)

平成〇〇年度教育研究活動報告書

氏名 _____ 部 _____

1. 教育教科目 (授業科目)

教 育 科 目	単位数	教 育 プ ラ ッ ス

2. 授業内容、学校文化、進路指導の重点は授業中に何を記入してください。

3. ナレッジ共有

グループ名	担 当 お よ び 活 動 内 容

4. その他教育活動 (指定試験、講習会、ホームページ活動、特別授業等)

資料 2-2-②(2)

5. 研究業績一覧
研究業績 研究業績(研究発表)の件数、ただし、重複は除外する。
研究業績がない場合は、研究業績発表を形成し記入のこと。

6. その他活動 (社会貢献、地域貢献、学芸活動等)

平成 _____ 年度 研究業績一覧 (別紙)

No.	種別

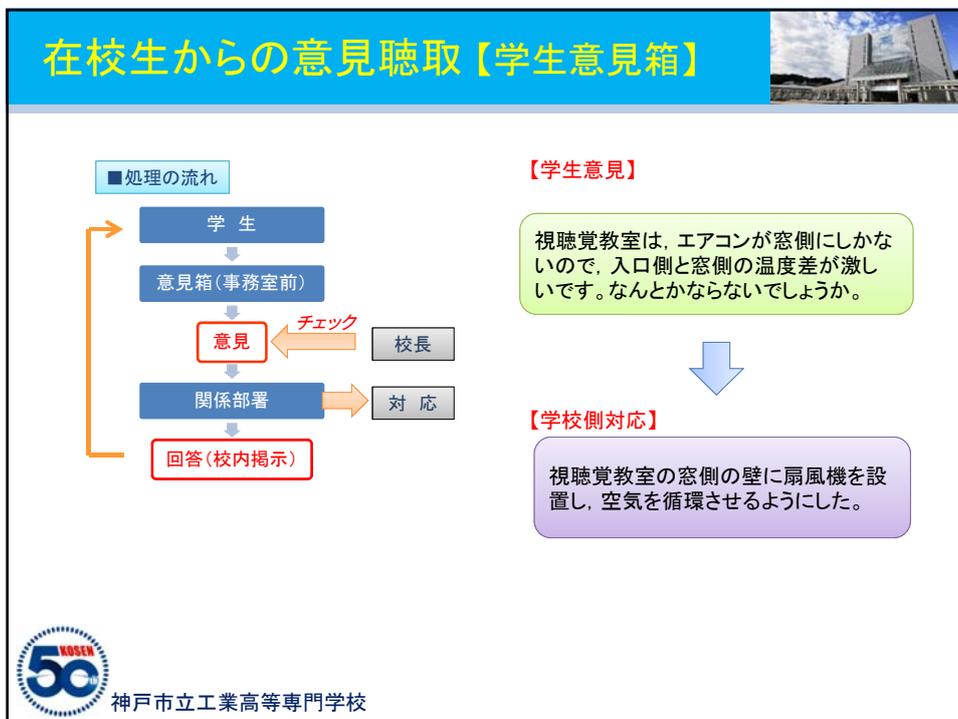
平成 24 年度 研究活動報告書 (別紙)

(注) 当該年度に付いた研究活動について記述すること。



神戸市立工業高等専門学校

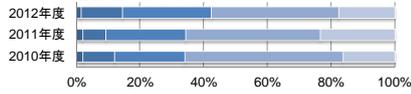
在校生からの意見聴取【学生意見箱】



本科卒業生意見聴取【学校満足度調査】

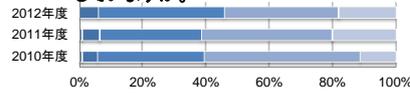


1. 学校の施設や設備について、どの程度満足していますか。



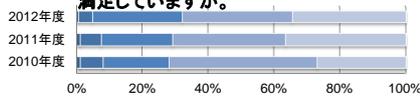
	2010年度	2011年度	2012年度
■ 1:不満	2.0%	2.0%	1.4%
■ 2:やや不満	9.9%	7.0%	12.9%
■ 3:普通	22.2%	25.1%	27.8%
■ 4:やや満足	49.8%	42.2%	40.2%
■ 5:満足	16.3%	23.6%	17.7%

2. 授業について、どの程度満足していますか。



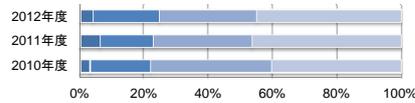
	2010年度	2011年度	2012年度
■ 1:不満	1.0%	1.0%	0.0%
■ 2:やや不満	4.9%	5.5%	6.2%
■ 3:普通	33.5%	32.2%	39.7%
■ 4:やや満足	49.3%	41.2%	35.9%
■ 5:満足	11.3%	20.1%	18.2%

3. 学生生活についてどの程度満足していますか。



	2010年度	2011年度	2012年度
■ 1:不満	1.0%	1.0%	0.5%
■ 2:やや不満	6.9%	6.5%	4.3%
■ 3:普通	20.2%	21.6%	27.3%
■ 4:やや満足	44.8%	34.2%	33.5%
■ 5:満足	27.1%	36.7%	34.4%

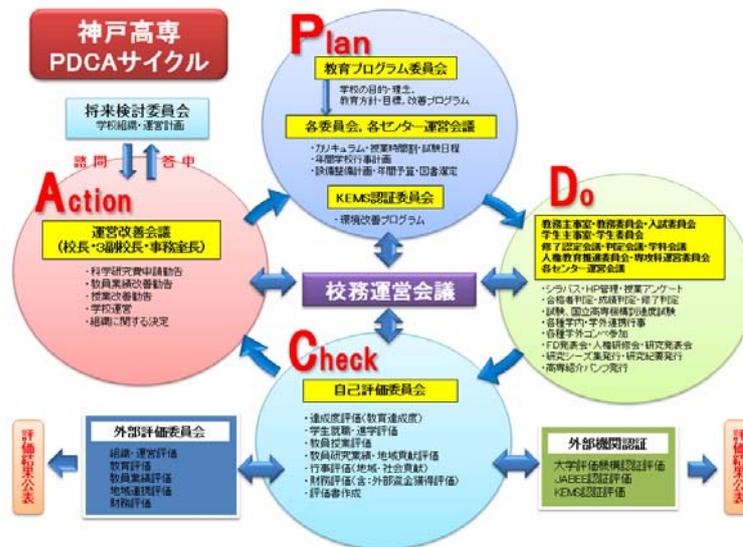
4. 就職や進学について、どの程度満足していますか。



	2010年度	2011年度	2012年度
■ 1:不満	0.5%	0.5%	0.5%
■ 2:やや不満	3.0%	6.0%	3.8%
■ 3:普通	18.7%	16.6%	20.6%
■ 4:やや満足	37.4%	30.7%	30.1%
■ 5:満足	40.4%	46.2%	45.0%

神戸市立工業高等専門学校

神戸高専のPDCサイクル



神戸市立工業高等専門学校

IV. 外部評価委員会議事録

平成 25 年度 神戸高専外部評価委員会議事録

【太田委員長】 校内見学，橋本副校長の説明，事前の資料を元に，それぞれの先生から忌憚のないご意見を頂きたいと思います。進め方ですが，自己評価書の本文編の評価項目に従って，進めて行くことにしますが，よろしいでしょうか。

まず，評価項目としまして1番目が「神戸高専の目的に関すること」ということでございます。自己評価書では，それに関しての内容が記述された上で，最後に自己評価されております。

それでは，項目（1－1），（1－2）に対する意見をお願いします。

【沖村委員】 評価に入るまでに自己評価の経緯，外部評価が目指すべきものなど，本編の中に，“はじめ”に該当するような項目がないが，外部評価の経緯，自己評価書は誰が作ったのか？

【橋本副校長】 自己評価については，3年前に実施しており，毎年行うとしていたが，そこから止まっていた。本年から新たに構成し，やり始めたい。

次に，外部評価の経緯は，本校は，第三者評価として，機関別認証評価と外部評価としてJABEEを受けなければならない。両方の内容を統括した形で，本校の点検項目を作った。その項目についても，来年，再来年と認証評価，JABEEを受けなければならない。そこで各項目について，今回の場でも意見集約し，もし改善しなければならない項目がある場合には，改善したい。

また前回は，大学や企業の先生など本校に近い立場の方が外部評価委員であった。今回は色々な分野の方から委員に入って頂き様々な視点からご意見を頂き，本校の運営に生かしていきたい。

自己評価書の作成は，自己評価委員会の中で分担して各項目を作成し，橋本副校長がまとめて，最後に校務運営組織の中でチェックしまとめた。

【沖村委員】 認証を受けることが大きな目的であるために，点検というような形の内容が非常に多く，その点検に従ってどの位できたとか，過去の実績がどうだったかと記述が少ない。例えば，学生の授業評価に関しても，こんな形でというテンプレートはあるが，実質どんな形だったのかが書かれていない。それに関して疑問があった。

【太田委員長】 10年前に外部評価の委員として議論をまとめた。その時とはかなり事情が変わっている。自己評価しているこの内容について，色々と意見を頂いて，その上でもう一度まとめ，認証評価に向けての作業をさらに進めるという解釈でよろしいですね。

【橋本副校長】 はい

【太田委員長】 （1－2）に関係することで社会に対して公表されているという点に関して，ホームページで一目そうになっていると思われるが，受験生（中学生）に対しての説明は十分なのか？

ホームページでは中学生の皆様へという形で，各学科，分かりやすく説明しようとしているが，学科によって少し温度差があるのではないかと学校全体として統一した指針を示してやっているのか，学科任せになっているのか？

【八百広報室長】 ホームページに関する内容については各学科の責任になっている。中学生に関するアドミッションポリシーはオープンキャンパス等、年に3種類の説明会を実施している。この説明会の中で学科の案内を含めて説明を行っている。

【太田委員長】 ホームページを見ると、機械工学科や都市工学科は分かりやすい内容であったが、少し分かりにくいところもあるので、公式に公表しているところについては、統一した方がよい。

【京兼委員】 中学生の目線から見ると、広報委員会で各学科の共通的なベース部分は同じにした方がよい。私のところは、基本的なところは同じような内容で、学科で特徴のあるところは少し変えている。ばらばらにしていると、中学生にとっては分かりづらい。
英語のホームページに関しては充実してきましたか？

【赤対副校長】 英語についてはまだ作れていない。そういう動きはあったが、新年度から英語ネイティブの教員の採用ができたため、今後本格的に作成していく。

【太田委員長】 講義室でネイティブの方がやられていたが、その先生ですか？

【赤対副校長】 その方は非常勤です。これまでも採用を検討していたがタイミングが合わなかったが、今回採用できた。

【太田委員長】 英語での講義は大学でも大変ですが、今、グローバル、国際性はかなり問われているため、その方向性は是非必要である。

【沖村委員】 養成すべき人材像として、実践的技術者の養成、開発型技術者の養成など言われているが、最先端の研究は良く進められているが、組織や社会への実装が遅れている。社会や組織への実装の研究、役に立つものやっていくという観点からみると、成果が社会へ還元できるような形をプラスアルファすると、単に実践的術者と言うよりももう少し魅力ある視点があると思う。

【赤対副校長】 本校では産学連携を推進している。企業から頂いているテーマは現場で生まれている内容で、卒業研究や専攻科の研究で実施している。できるだけ企業との連携の中でテーマを貰い、場合によっては企業に出向き、学生が現場のエンジニアと会話するなどといったことにも努めている。ただ、数として多くないのが実態である。

【京兼委員】 それに付随して中教審で3年程前にでましたが、その時のタイトルには実践的、創造的、まさに沖村先生のおっしゃる事が入っているのですが、神戸高専は中教審が出て、創造性などはアドミッションポリシーなどには入れなかったのですか？

【赤対副校長】 中学生に対するお話ですか？

【京兼委員】 はい、中学生に対する、いわゆる中教審の答申の中で出ている高専が養成する人材像などで創造性とかが前面に出てきているのですが、アドミッションポリシーなどに入れなかったのですか。

【橋本副校長】 アドミッションポリシーには入っていません。創造性教育、エンジニアリングデザインなどは各学科でそういう事をやったうえで、専攻科のほうで専攻科エンジニアリングデザインをやっております。まずは本科では各学科でクローズした形で実施しており、専攻科に進学後は学科を超えた形でグループディスカッションをすることにより課題解決をして製品を作るという体験をさせています。このようにいままで（自由？）にはありませんけど、習ったことをベースに自分自身で開発して最後まで作ることにしています。その中で企業の力をお借りして、製作の過程で実際の現場の人を審査員にお招きして、コメントいただくなどの製造現場の声を聴きながら製作をしています。アドミッションポリシーなどには入れていませんが、授業内容として、より実際に仕事ができる学生を育てるといふ所にシフトしてすすめています。

【太田委員長】 他に何かありませんか？

【太田委員長】 企業にインターンシップなど長期で行くような事はありますか？

【赤対副校長】 4年生の夏休みに選択科目としてインターンシップを設けています。大体240名中200名くらい参加しています。（相手方の）企業様の都合と日程的にあわなかったり、クラブの行事と重なって行けない場合がありますが、ほとんどの学生が申請をして8割くらいの学生はインターンシップで企業に出かけている。専攻科生でも海外インターンシップの準備をしていますが、まだ開始するには至っていません。

【太田委員長】 海外インターンシップの方は受け入れの問題ですか？それとも送り出す方？

【橋本副校長】 安全に送り出す使命があります。どうやって安全に送り出すことができるかがまず一つの問題で、また受け入れ側の費用ですね。受け入れ側の国によってもちがうのでそれらのセレクトが必要です。昨年からある企業とは交渉が進んでいたが、企業側の事情で中止になりました。来年度もあらたな企業（の交渉）をスタートさせることになっています。

【太田委員長】 実践的ということであればそういう事は重要ですね。専攻科は創造性というか開発性というお話ですが、開発の方はどうですか？

【橋本副校長】 （開発とは）研究開発ができるということも目指しているが、普通に仕事ができるということも含めています。なるべく手が動く学生を育てたいという事です。

【村元委員】 追加の説明になるかも知れませんが、我々、機械金属工業会としては、小林先生10教科位ですかね、授業に企業から講師を派遣しているのは。

【小林地域協働研究センター長】 1回90分単位の授業で年間12コマです。

【村元委員】 企業からそれにふさわしい講師を派遣させて頂いて授業させて頂いておりますので、若干役に立っていると思うのですが。そのほかロボコンの事とか、我々企業としても協力できるところはさせて頂いております。

【京兼委員】 それは学科横断型なのですか？それとも特定の学科だけですか？

【小林地域協働研究センター長】 機械、電気、電子、それに専攻科もあります。課外活動ではロボット関係学生向けの講演会なども考えています。機械金属工業会の連携部会というのがありまして、そこから定期的に講師などとして来て頂いております。

【森委員】 第1番の高専の目的に関する事ですが、本校でもそうですが、学校の教育本紙であり、校訓であったりするものは、いろいろな冊子になったり、ホームページにのったり、また社会やいろいろなところでその話を致します。ただ、知ってほしい子供たちといえますか、こちらでいうと学生さんですが、なかなか周知徹底が難しいんですね。そのポイントは先生方がその目標をきちんと理解して、それぞれ授業や活動されるわけです。その教科、活動の目標もまたあるわけで、その目標と学校の目標と合わせて自分の教育にどう反映していくかを工夫していただく事が学生への周知徹底につながると思います。学習教育目標の携帯版を持って頂く事も結構だが、先生方がその思いをもって授業に取り組まれることが大事かと思えます。自分の学校の事を思い返しまして、一言申し上げました。

【太田委員長】 ありがとうございます。ほかにございますか？

【京兼委員】 先ほど太田先生からお話されました海外インターンシップですが、国立高専も海外インターンシップを積極的にやろうという事を言っておりまして、大阪府大高専と一緒にやりたいという事で入っていますので、もしよかったら神戸高専さんも必要な事がありましたら、こちらのほうに声をかけてくださればと思います。

【橋本副校長】 実は昨年よりそちらと話をさせて頂いておりまして、提携企業の準備をすすめていたのですが、頓挫してしまいました。引き続き来年もよろしくお願ひします。

【太田委員長】 高専というのは中学を卒業して入ってきて5年間を過ごすので、人間が非常に大きく変わっていく時期なので、教育目的という事が非常に重要になってくる。途中で自分は学科があってないなあという学生さんが出てきた時には、機械から都市というような転学科の制度はあるんでしょうか？

【赤対副校長】 はい。転学科の制度はもうけておりまして、3年までは変われるようになっています。ただ、多少の条件がありまして、たとえば入試成績がその学科の最低点を超えているとか、なにより今の学科で上位にいる事が条件であり、その学科が苦手だから逃げ出すような対応はできない。実体としては3から4年に1名おられます。たとえば入学後すぐそういう事が出てくることあるのですが、最近でも中学時代に仲の良い友達のクラスにうつりたいという要望があったものの、1年後には申請が出てこなかった。理由を聞いてみると新しく友達ができたのでうつる必要が無くなったそうです。このように専門をかわりたいというような本質的な要求では無く、中学校で指導して頂いて十分であるのが現状です。第2希望で入る学生もやはり第2希望であれやってみたい内容であるという事で、十分満足して頂いているようです。中には第一志望でたとえば機械1学科しか書かない学生もおられ、その学生は機械だけを学びたいという姿勢ではっきりしています。中学校の先生方の指導も行きとどき、また高専の広報活動の成果と思われれますが、本当に行きたい学科を第2、第3希望に書くという姿勢が徹底されているように思いま

す。

【太田委員長】 高校では文転というのが有りますよね。理系から文系に変わるという事ですが。高専ではそういうのがあり得ないので、よほど中学生に対してよほど高専の目的、教育方針、将来の出口の話を含めて徹底しないとイケないという事ですね。高専でも高校卒業の資格で大学を受けられるのでしょうか？

【赤対副校長】 はいそうです。

【太田委員長】 それはそういうことでいいのでしょうか？

【赤対副校長】 転科の話以外でも、3年生で進路変更する学生がいます。文系だった（と思われる）学生が3年間我慢して高卒認定をもらって大学を受ける。3年の途中からは高専の授業は欠点を取らない程度に、そこそこにして、予備校に通ったりして国立大学の文系に一発合格という学生も出てきてまして、先ほどのプレゼンの中で留年、退学率が4%前後という話も出ていましたが、学年別にみますと3年生が一番多いですね。3年生で高卒認定がもらえるという事で、違う進路を目指すためそのようになっています。高専もいやで他に勉強するのもいやで、学科の世話で、3年修了で就職する学生もおります。

【太田委員長】 私の不手際で1番の目的に関する事以外にも話が及んでしまいましたが、1番目の目的のお話はありませんでしょうか？

【太田委員長】 時間の関係もありますので、また関連した質問が出てくるかも知れませんが、次に進めさせていただきたいと思えます。2番目ですが、教育組織に関する事という事で、これは4項目ほどありますね。

（2-1）教育活動を行う上に必要な教員が適切に配置されているか？

（2-2）が全教員の教育について学校による定期的な評価が行われているか？その結果を教員組織の見直しに反映させているか。

（2-3）に教員の採用や昇格において適切な基準や規定が定められており、適切な運用を行っているか？

（2-4）が教育活動を行う上で必要な教育支援者が適切に配置されているか？

ということでございますが、自己評価はいずれも肯定的に書かれているように思われますが、これについてお気づきになった点、ご質問ありましたらお願いします。

【大村委員】 男女共同参画について、1つ質問させていただきたいと思えます。これは、我々の大学もですね非常に悩ましい問題でございまして、何に問題があるかといいますと、1つは、現行の人事計画の中で女性が取れるのかというところです。ようは、定年退職とか、そういうところの空きを見ながらでないとなかなか難しいというところがある。それから、分野的に女性が少ないとかですね、今で言うとバイオ系はたくさんおるんですけども、非常に異なった分野ではなかなか難しい。そういうところで、中々、ここに書かれているポジティブアクションだけでは、この2018年までに全教員の3割、これはかなりハードルが高いように思えます。多分難しいんじゃないかなというぐらいの、ようは3割女性を雇うということは非常に難しいハードルの高いものではないかなと思うのですが、この点に対して、この目標値というのがどれぐらいの意味合いがあって、どのように達成するかどうかは別にしてどういうふうに考えられておられるのか少しお考えを

伺いたい。

【伊藤校長】 ポジティブアクションは平成 28 年度までに採用する教員の 3 割を女性として採用したい。但し、評価が同等の場合、1 次、2 次で優先的に女性をとるということです。まあ、それでいって本当にそれでも採用する 3 割が取れるかどうかというのはあくまでも努力目標です。昨年に、近畿 7 高専が集まって男女共同参画について議論することがありまして、やはり、どの学校も一般的に、一般科の先生については、女性は採用しやすい。ポジティブアクションは、高専機構の場合は優先的にとるということをはっきり謳っております。でも、やはり専門学科の先生方を採用するときそれをすることについてはやっぱり躊躇します。というのは、公募して女性が本当に来るのかどうかということを心配されていました。実際に我々も参加しようとしているんですが、女子大であるとかそういったところに女子学生、要するに理系の女子学生のところに高専というものを PR しようということを高専機構の方で言われています。それについて、近畿については我々も一緒に入って行って？しようということ。

例えば、聞きますと、女子大生は高専の例えば化学の学生が高専の先生に専門学校の先生になるのに教員の免許があるんでしょうと、まあ、それは求めてないわけです。そういうところがかかなり意識の差があるのでそういったところはつぶして行って応募しやすくしたい。

【太田委員長】 京兼先生どうでしょう？

【京兼委員】 機構はもう大々的にやっていますですね、例えば、各学校で女性教員をとったら研究費をその学科に 100 万円渡すとかね、そういうふうなことをやってましてですね、そうとう旗をふっています。

【村元委員】 国がやっているんですか？

【京兼委員】 いや、高専機構として別枠の予算でその学科に渡すというような形ですね。今、伊藤先生がおっしゃられていました、この間も奈良女子大に行ったりしてドクターの学生に色々説明をして高専にぜひ来てくださいと PR したり、シンポジウムを東京と札幌でやったりしています。ただ、先生 1 つだけお聞きしたいのですが募集の教員公募のところは女性優先ですということを書かれているのですか、神戸高専さんは？

【伊藤校長】 ポジティブアクションについては明記していこうと思います。

【京兼委員】 これまでは書いてなかったのですか？

【橋本副校長】 策定されましたのが去年の 11 月なんですね、まだ記載していません。

【村元委員】 それは法律的に許されているんですか？

【橋本副校長】 はい、それは、非常に不均衡がある場合には、女性を優先して採用していいという法律がありましてその法律にのっとって運用しております。男女雇用均等法では駄目なんですけども、非常に職場に対して男女の比が非常に不均衡がある場合、今総務省は 30%を目処にしておりますので 30%を超えていなければそういう女性を優先的に採用

するということをやってもよいという法律になっています。

【伊藤校長】 高専機構の場合はできるんですか？本校の場合は教育委員会全体の組織になりますと女性の比率って非常に高いので、我々のできるポジティブアクションは同等の評価である場合に限り女性を優先してとることができますということなので、機構さんがやられているのと我々のとはかなり違うと思います。

【大村委員】 これ、大学でもポジティブアクションの文言は必ず公募に入れなさいということがもう常識になってしまっていますので、結局その、大学も含めて教員の女子比率が非常に低いということもあって女子を積極的に採用しましょうということがもうこれは社会通念というかそういう時代になっております。これはやむをえないというふうに思います。とすると、我々のほうでもポストは女性専用のポストまで作ってですね、ここは女性しか取れないといった動きも・・・

【村元委員】 不平等ですね。

【大村委員】 逆にただそれはもう世の中としては・・・

【村元委員】 その世の中ですけど、それがだんだんその面白い世の中になって、ちょっと意見変わりますけど、話が変わって申し訳ないんですけど。どうもこう納得いかんところも多いよね。無理やりそういうことをしないといけないというのはおかしいですね。

【太田委員長】 そうですね、自然にそういう流れを作らないと

【村元委員】 自然に作らないかんですね

【大村委員】 まあ、鶏が先か卵が先かということで、こういうことをして女性がどんどん社会進出するということも 1 つの目的だろうと、それはそれなりに動かざるを得ないというか、まあ、そういうことだろうということです。

【太田委員長】 本学の工学部の 3 年前までは女性教員はゼロなんです。それで、採用を強く、今は 2 名なんです。

【村元委員】 それでもまだ 2 名なんですか。

【太田委員長】 それをまだ増やすようにということでやってるんです。気長な取り組みとしては、そういう技術系、理系を目指す受験生を増やしていくというような取り組みも必要となってくるかなと。本学も気の長い話なんですけどリケジョを求めるようなシンポジウムをやるとかね、女子高校生を対象にそういうことを開催するとかとかそういったことを一部考えております。

【太田委員長】 他に何かございますか。

【大前委員】 そうしたら、民間の視点からいわせていただきますと、最近民間企業では、ES といましてね、従業員満足度というものをものすごく重視した経営になっております。で

すから、良い教育をしようと思うと、教職員の皆さんが働きやすい環境を作る、職場作りですかね、そういうものが非常に重要視されてくると思うんですね。ですから、こういう適切な配置とか評価もいいと思うんですけど、そういった面での取り組みについての評価が今後必要となってくると思うんですけど。

【太田委員長】 ありがとうございます。職場満足度を満たすように・・

【赤対副校長】 具体的に、例えばアンケートを取ったり？

【大前委員】 例えばですね、やっぱり先生が何を欲しているのかは大体分かる、例えば、研究しやすい環境を作ってほしいとか、企業との接点をより多く持ちたいとか、そういったことを受け入れやすい、そういったことをちょっと取り入れていただいたらなあといった感じですかね。

【太田委員長】 他にございますか？

【大村委員】 じゃあ、もう1つ聞きたいことがございまして、私も平成16年から22年までここで非常勤をさせていただいたんですけども、教育活動、教育組織の中で非常勤講師の位置づけというか、教育改善活動なんかです、どのように非常勤講師に対する取り組みをさせているのか、結構非常勤の先生に対しては、私を感じたのは物が言いにくいのではないかなと、自分の中の組織の教員であればいえるんですけど、中々非常勤で外から来ていただいている先生には文句を言いにくいのではないかなと思うんですがいかがでしょうか。

【赤対副校長】 実は、先ほどありました学生によるアンケートは非常勤の先生もやっていただいております。点数が低い場合には大抵、逆に記述が多くありましてですね、かなり無茶苦茶書かかっている先生もおられまして、そのときには、それをもとに次の年改善をさせていただきたいと校長名でお出しした時に、ある方はそれならやめるといわれる方もおられました。実際にその先生はやめられたんですけど、確かに納得のいく学生の意見であれば、それを反映していただいて次の年もやっていただいているんですね。どちらかといえばこれは学生の声ですからという形で先生方にはお伝えして、校長名でこういう意見が出ているのでごらんいただければといったことで、それを聞いていただける先生もおられますし、逆もあるんですけど、そういった形でお願いはしています。

【大村委員】 そうしたら、定期的なルートでは同じような取り扱いはしているということですね。

【赤対副校長】 そうですね、アンケートをとって

【伊藤校長】 今の太田委員の話に関して、私、今年94人ですかね、全教員、短い先生で30分くらい、長い先生で1時間ちょっと、個別面談をさせていただいたときに、必ずどの先生にも、ほとんどそういうふうに1対1でお話をする機会はないのでこの際ですから私に言いたいことはありますかという形で聞いたのですが、今太田委員のご指摘にもありましたが、もう少し私が毎年毎年やっていく中で噛み砕いた形でですね、そういう話をさせていただいて、先生方の要望をくみ上げていくといったようにさせていただきたいと思っております。

【京兼委員】 あの付随してなんですが、先生と面談するときに教員評価のシートを持ってやるんですか。それともなしで？

【伊藤校長】 出していただいております教育活動報告書、研究活動報告書を元にやります。

【京兼委員】 それで、各先生のいろいろ評価があつてチャートがありますね。どこが弱いとかどこが尖がっているとか。

【伊藤校長】 どういう活動をしてきましたかという

【京兼委員】 そのチャートは作ってないんですか。そうですか。

【伊藤校長】 はい。それでお話を聞いて、最後に何かありますかという形です。

【菅野委員】 私が学生としていたころから、私の居たのはだいぶ前なんですが当時の先生方というのは私にとっては中学校の先生よりも密な対応をしていただいたという記憶がありましてですね。先ほど、ちょっと触れられましたけど、専攻科ができてですね、研究という、我々は5年で終わってましたから、教えるというようなことに重点があつたと思うんですけど、今は専攻科ができて研究も加わりましてですね、ちょっと先ほども触れられていましたけども、その中で特に授業アンケートも出てましたけど、先生方も大変だと思うんですけど、こういうのは頻度というのはどの先生方も同じ頻度で授業アンケートを行っているんですか。

【橋本副校長】 昔は教員がアンケートを配ってやっていた。教員評価（昇任昇格）資料として使用されるため、全てデータベース化している。現在は学生を総合情報センター演習室に集め、PCから入力している。授業アンケート実施頻度は全教科で半期ごとに年2回、毎年実施しているため、もれなく評価されている。

【菅野委員】 機械的な作業で学生に対して冷たい対応となっていないか。

【橋本副校長】 昔の紙に記入する形式の時は、学生は1のみ、5のみといった適当な記入を行っていた学生もいた。現在の方式では1の評価（最低評価）を付けた場合には、自由記述欄に何が悪いのかを記入しなければならない。そのため、評価の低い科目については点数のみを見るのではなく、学生の声を参考にした上で授業改善を求めている。

【太田委員長】 時間の関係もあります。今、項目3に入っていますので、2と3を一緒に議論いただけたらと思います。

【太田委員長】 授業アンケート結果を学生にフィードバックしていることは良い事である。改善点を学校のHPで学生は見る事ができるのか。また、学生のコメントも閲覧できるのか。

【橋本副校長】 学生のコメントは閲覧できない。生々しいコメントがあるため、当該教員と運営改善会議の委員しか見えない。

【太田委員長】 色々なことを書く学生がいることは頭に入れて、公開しても構わないのではないかと。当該教員以外の教員には公開されているのか？

【橋本副校長】 当該教員のみが見える状態である。

【赤対副校長】 授業アンケートで学生が授業を評価するだけでなく、教員間の授業公開を行っている。年に1回2週間ほどの期間で実施している。授業を参観した教員はアンケートを記入し、公開した教員に渡す形式を採っている。

【太田委員長】 教員の組織表をみると特任教授とあるが、どのような位置づけか

【伊藤校長】 本校を63歳で定年を迎えた本校教員を特任教授として、最大2年間延長する制度である。

【太田委員長】 特任教授は高専の目的や教育方針について共有されていると考えてよろしいですね。非常勤講師の先生方についてはそういうことを徹底されているのでしょうか。

【赤対副校長】 非常勤講師には様々な企業や大学に依頼して、来ていただいているため強くお願いできていないところがある。

【京兼委員】 留年率が5%で多いのか少ないのか判断が分かれるが、私は多いように感じる。その原因について分析しているのか

【赤対副校長】 10年ほど前まではもっと多かった。その後、再評価制度を取り入れている。最近の留年生の中には、精神的な問題で学校に来られなくなった学生がいる。そのような学生に対しては学校カウンセラー、学生主事室、学生相談室でケアをしている。成績不振者に対しての取り組みとして、試験前2週間の期間を設定し、学習支援を行っている。学習支援とは自習できる場所の確保や教員への質問対応の時間を作る形式である。また、長期休み（夏、冬、春休み）には学力強化期間を設定し、成績不振者を呼び出して勉強させている。精神的な面、学力の面のサポートによって、最近では留年率が4%になってきた。この数字で満足しているわけではないが、他高専の中にはもっと高い留年率の高専がある。勉強が解らずに留年していくのは教員の責任であるため、できるだけサポートしていきたい。精神的な問題は現代病であり、増えてきている。こういった中で、仮に留年率2%といった目標値を設定しても達成は難しいと考える。

【太田委員長】 特定の教員の成績評価が厳しいといったような問題はあるか

【赤対副校長】 ごく一部にはあります。本校の再評価制度では、例えば3年生以下では、3科目までの欠点科目数であれば進級できる。欠点科目については、次年度に再評価を受けて取り戻すことになる。

4,5年生では5科目までの欠点科目まで進級することができる。欠点をとった5科目のうち、2,3科目が同じ教員が担当する科目であることがある。

【太田委員長】 厳しく教育することは大切だが、厳しい分、学生に対するフォローがなされているのか。

【赤対副校長】 その点はいつも議論の対象となる。厳しい評価をつける教員は、「適当に点を上げればいいのであれば、いくらでも上げられる。しかし、教育内容のレベルの維持が大切である」と主張している。教育のレベルを下げることは、卒業生のレベルを下げる事であり、これは高専が社会から認められなくなることに繋がるとも考えられる。

【太田委員長】 難しいところですね。

【沖村委員】 項目 2 と 3 は、私の個人の印象では、非常に綿密に行われており、更に改善を繰り返していることから、非常にポジティブに評価できる項目ではないか思っています。ただ、1 点お聞きしたい。先ほど、菅野委員の話にもありましたが、先生との付き合い、先生と普段のコミュニケーションができるというのは、少人数教育が効果的ではないかと思えます。ただし、少人数教育は教員の大きな負担になると思われれます。私の経験で、新生を 10 人ずつのグループに分けて、1 人ずつの教官を付けて、半期、指導しました。そうすると講義を持ったのと同じぐらいの負担がかかるんです。たいへん負担がかかるんですけど、レポートを書かせてみると結構評判がいいということもあった。そのような経験からすると、後から施設が出てきますが、施設を見ていると、あれでは少人数教育ができないなと思うんです。

あまりにも狭いので。少人数教育を取り入れた方が良いとまでは言えないが、少人数教育について検討を進めても良いのではないかと。

【赤対副校長】 少人数教育とは座学に対してのことか。

【沖村委員】 教室で 40 人に対して話すのではなく、10 人程度を対象とする。講義については 40 人に対して行うことになる。私が所属していた大学では「創造思考ゼミナール」という科目があった。この科目では共通のキーワードに対して、10 人ほどのグループが自由な発想で議論する。各グループについての教員は適切にアドバイスし、最終的に議論の結果を発表する。毎週 1 回は 10 人を相手に話をする。新生にとっては非常に新鮮な経験ができる。教員は講義 1 つを持っているのと変わらないため、負担は大きい。

【京兼委員】 間もなく専攻科の学位授与の要件が緩和される。学位の修了条件と JABEE の関係で調整が必要ですか？

【橋本副校長】 現在の専攻科の教育体系をあまり変更せずに新システムに移行できる見込みである。修得すべき 62 単位中の専門科目の最低単位数が 2 単位分の不足している部分を修正することで対応できる。JABEE との関係も問題ない。

【大村委員】 報告書 14 ページに、教育プログラム委員会が神戸高専教育表彰の候補者を選出し、受賞しているとあるが、毎年やっているのか。

【赤対副校長】 はい。

【大村委員】 公表はされているのか。

【赤対副校長】 受賞した教員は 4 月の教職員会議で校長より表彰される。

【大村委員】 その時に、FD 活動の一環として、受賞理由、活動内容の優れた点について公表されているのか。また、学生に対しても公表されているのか。それもクローズドの世界なのか。

【赤対副校長】 学生には伝えていない。総評も公表していない。表彰状の中には数行は書かれている。受賞した教員は翌月に FD 活動の一環で、活動内容について発表している。

【大村委員】 山形大学では卒業式の時に教員表彰も行っている。そうすることでインセンティブにもなると思われる。全学でやっているのか、工学部でやっているのかは聞き忘れた。何かそういうところで、非常にインセンティブになっていると聞いた。せっかくの機会なのであるし、名誉なことですから、公表してあげるのも 1 つの手ではないかと個人的には思う。

【京兼委員】 研究費は、差し上げているのか？

【赤対副校長】 わずかではあるが、1 件当たり数十万渡している。

【太田委員長】 それは重要ですね。

【太田委員長】 時間の都合もあるので、また前に戻っても良いので、次の学生の受け入れに関すること (4-2)、学生に関すること (5)、この 2 つについて何かご意見がございましたら、お願いしたいと思いますが・・・

【菅野委員】 専攻科の前期・後期とあるが？イメージが浮かばないんだが、後期で受かった人は後期で卒業するのか？

【橋本副校長】 試験時期が前期と後期で異なり、前期が 6 月に行われ、大学を受けて不合格になった学生が 10 月の後期を受験する、いわゆる 2 次募集のようなものである。

【大村委員】 細かいところですが、課外活動のところを熱心にやられていることに感心したのだが、リストを見ると顧問のいないクラブがあったり、1 人の教員が複数のクラブを担当している場合は、非常に負担が重いような気がするのだが？確か 2 つのクラブは顧問の先生がいなかったと思うが・・・

【大淵副校長】 柔道部については顧問に資格がいることになっており、現在、活動している学生もいないので休部状態となっているためである。囲碁同好会は、学生もいないし、顧問も退職するので次年度は廃部となる予定である。したがって、全教員が何らかのクラブの顧問になっている。

【大村委員】 教員の負担のアンバランスについてはありませんか？

【大淵副校長】 正直あると思う。複数顧問がいる顧問でも実質は 1 人で見られているクラブもあるのが実情である。

【大村委員】 中学校の場合、クラブ顧問をされている先生は休日に出て行く必要があるなど非常に負担が大きいと聞いている。その場合の教員に対する処置はされているのか？

【大淵副校長】 土日の活動に関しては、神戸市の規定に従って手当が支給されている。あるいは、代休のどちらかを選べるようになっている。

【太田委員長】 学生からの意見を聞くための相談箱を設置されているが、パワーハラスメントやセクシャルハラスメントも含めてそういうものに対する対応は、ちゃんとした制度はできているのか？

【大淵副校長】 学生意見箱に出てきた意見に関しては、運営改善会議で対応している。あるいは、相談室や保健室と行った学生に身近な窓口からの情報は学生主事にあがってくるようになっており、学生主事から運営改善会議の方で議論するようになっている。

【太田委員長】 そういう事例の場合、匿名の場合も取り上げているのか？

【大淵副校長】 学生意見箱は、実名の場合のみ対応することになっている。これまで、パワーハラスメントなどに関する事例はなかった。ただ、そういった案件の場合は匿名でも対応する。

【太田委員長】 これは危機管理の上で非常に重要だと思います。

【京兼委員】 神戸高専の障害学生支援委員会というものがあるが、要綱をよむと障害学生という特定の学生だけではなく、最近、精神的ないわゆるグレーゾーンのアスペルガーや高機能障害といった学生が高専の場合わりと多く入ってきているが、そういうような包括した要綱を作る予定はないか？

【大淵副校長】 障害学生支援委員会は、現在のところいわゆるハンディキャップを持った学生を対象としている。それ以外の学生については、相談室が窓口になって対応している。

【京兼委員】 国立高専の場合、要綱を既に作っている。高機能障害とかが増えてきているのできちり整備されている方が良いと思う。森先生、中学校の方でも同じ状況だと思いますがいかがですか？

【森委員】 中々、実数は調査がしにくく国も公表していないが、中学校在籍の6~7%程度と、中学校でも一番発達障害系のお子さんへの対応、特に知的障害を伴わない子への対応が重要。知的障害を伴っている子や肢体不自由の場合は、それなりに専門の障害児学級とかがあがるが、通常学級にたくさんの子供がいるので、これから高校のほうにもお願いしていく形になると思われる。勿論既に対応されている部分もあるが、その対応を考えて行くのが良いと思う。

【太田委員長】 時間がだいぶ迫ってきているので・・・時間が1時間というのは結構短いですね。それでは6番目が施設・設備に関する事、7番目が財務に関する事となっておりますが、こちらの方に重点を置きながら、またご意見ございましたらお願いします。勿論、前の項目に帰って頂いても結構ですが・・・

【太田委員長】 高専の場合も国立と公立、大学の場合は公立大学の方は文科省があまり面倒見てくれないですね。総務省マターになるわけですから……。公立の場合は、国立高専と同じように文科省からの支援など、何かハンディはあるのでしょうか？

【伊藤校長】 公立の高専の場合、公立の大学と全く同じです。昨年、補正予算で多額のお金が（国立高専だけに）配分されたときに、時の矢田市長がおかしいということで、自ら動かれまして、私も文科省の方へ行ったのですが、やはり基本的には、公立の高専は県あるいは市で対応されるべきであって、そもそも文科省のお金が直接公立の高等教育機関に入る仕組みがないので、公立大学と同じ状況です。

【太田委員長】 それ以上に我々も辛いところなのですが……。そういう意味で、科研費のデータが出ていますが、科研費はそういうことと関係なく、フラットに研究者の方々が獲得することができるということで、申請者率が 95%ぐらいになっているということで、全国的にも上位の方ではないかと思われるが、我々大学も理工系は 100%ぐらいいくが、文系はいかない……。先ほどのデータは、一般科の先生も含めて 95%でしょうか？

【橋本副校長】 はいそうです。

【太田委員長】 そういう意味ではすばらしい。

【京兼委員】 あとの 5%は何か出さない理由があるのですか？

【橋本副校長】 定年間際であって、もう研究費は要らないという先生もいるので……

【京兼委員】 そういう意味ですばらしいなと思いました。

【森委員】 施設なのですが、今日、見せて頂いて、やはり高校から大学までの学生がいるといった状況で、体も大きくなっている中で、やはり HR は狭い。神戸市はお金がないのは十分理解しているが、やはりもう少し広くしてあげないと……。1~3 年生と 4~5 年生は違うという形にはなっていたが、机も普通の中学生在ら使っている机ですよ。やはり、希望を持って高専に入ってくるわけですから、もうちょっと設備について改善してあげたらなあと思う。改善事項にも国立高専は 80m² とあるように、それぐらいは欲しいですよ。学生の気持ちになるとそういう思いがしました。ぜひ、要望をして頂いて何とか改善して頂けたらなあと思います。

【菅野委員】 旧の舞子と同じですよ。私がいたときはもう少し広く感じた。後ろもギュウギュウで入れないような状態だった。

【大淵副校長】 形が悪くなりました。舞子はもう少し細長かった。ここは正方形に近く、柱が予想以上に太く、内側に出ていた。

【伊藤校長】 今日見て頂いた教室はすべて横にやや長いタイプの教室であった。

【沖村委員】 特に、1~3 年生までの教室が悲惨ですね。4~5 年生はちょっと天井が高くなって明

るいなと感じた。

【森委員】 中学校の教室と同じような感じである。

【京兼委員】 国立高専と比べるとかわいそうなくらい狭い。いつも伊藤校長には言っているが・・・

【太田委員長】 この声を神戸市に届くようにしないといけない。

【伊藤校長】 ずっと、言い続けているのですが。物理的に例えば一般科の教室を明石高専がされたように3つの教室を2つにするということは構造的に可能ではあるが、そうするとどこかに、たとえば6つを3つずつにして、2つずつにすると、2つ教室をどこかに作っていかないといけない。実際、広いようで8万 m²あるのですが、それを例えばどこに建てるのかとなるとそのスペースはあまりあるようでないということもありまして・・・決してあきらめたわけではないのですが、何とかやりたいなあという強い思いはあります。

【村元委員】 ちょっと、机とあの狭さではね・・・大きな教科書をひろげる専門の授業では厳しいと思う・・・

【太田委員長】 90年に建てられたのですよね？ 建物は全て耐震設計されている？

【伊藤校長】 大丈夫です。

【太田委員長】 うちの工学部は耐震性が悪いので、必然的に立替をしないといけないということで、広くしたり、いろんなことができるのですが、そういう理由もないのですね。

【沖村委員】 地域共同研究センターとか国際共同研究センターというものは高専そのものを特徴づける上で非常に有効なものであり、市民の方々にとっても非常に重要なものだと思う。この自己評価の目的が認証評価がメインであって、これに関する説明がほとんどなかった。ここで、今日初めて説明して頂いてその概要がつかめたということなので、そういう意味で高専そのものを紹介する際やパンフレットを作る際などに、そういうものを行っていることとか学園都市での5大学との連携でやっている UNITYなどは素晴らしいことだと思うので、そういうものについても PR のパンフレットなどで強調して頂いて、地域と積極的に連携していることや国際的な活動をすすめていること、5大学の連携のなかでも神戸高専が責任を果たしていることをもっと積極的に PR するべきだと思う。5大学の連携で、高専の学生はどのくらい受講して、どのくらい単位が取れたか、全然載っていなかった。その辺はいかが？

【橋本副校長】 数は忘れたが、本校の学生はたくさん受講している。大学の中では上位だと思う。割と単位の取得率が高い。本校は男子学生が多いので、女子学生がいる学校に積極的に行ったりしている。

【太田委員長】 見学した機械実験室に1億円の五軸加工機のリースなど、大型研究施設が充実しているなあ、とちょっと見ただけだがそういう印象を受けた。それと学生の説明が非常に上手だ。実践的な教育をされているのかな、と感心した。

- 【大村委員】 私の大学では、最近、安全衛生が大変厳しい。衛生管理者が月に1回、清掃とか、棚から物が落ちてくるのではないかと、という指摘を頻繁にされるようになった。今日の見学では、きっちりされている部分もあるし、実験室と学生の教室が一緒になっていたりしてやむを得ない部分もあるが、安全衛生に対する取組はどうしているのか。
- 【林部長】 なかなかそれが不十分である。これまでも指摘を受けており、これからの大きな課題である。それでも、実習工場は依然と比べてかなり整理された。
- 【京兼委員】 安全衛生委員会はあるのか。
- 【林部長】 実際の活動はできていない。
- 【京兼委員】 法律上は、毎月チェックすることになっている。国立高専の場合は、月1回、必ずチェックしている。
- 【村元委員】 企業の立場からぜひ指摘したいのだが、企業は当然、5Sをやらなければいけないが、見たところ雑然としているので、避難の折などの為に、整理、整頓はやっておくべきだ。安全という面では非常に欠落している。
- 【大村委員】 安全衛生と絡めて、設備の改修を神戸市に訴えるのは非常に重要だ。教室もあれだけの人数を詰め込むというのは問題だ。感染の問題もある。そういう面を含めて神戸市に積極的に改善要求をした方が良いのでは。
- 【太田委員長】 高専を法人化するという予定はないのか？
- 【伊藤校長】 全国の57高専の中で、唯一、教育委員会の傘下である。高専だけでは法人化できない。大学と一緒になれば、法人化が可能になる。法律上、高専だけで法人化は無理である。
- 【太田委員長】 法人化すれば、安全衛生面できっちり取り組まれるのだが、そういう時を待つしかないのか。
- 【京兼委員】 看護大や外大と一緒になったような法人化は全然考えていないのか？
- 【伊藤校長】 教育委員会では、話はいろいろでているようだ。
- 【京兼委員】 国際化について、努力目標でもう少しスピード感をもってやってもらえればありがたい。
- 【赤対副校長】 この3年間でかなりがんばったつもりだが、あと、どのあたりのことを言われるのか？
- 【京兼委員】 海外インターンシップや学内の学生のモチベーションを上げるという意味で留学生の受け入れが大事ではないか。ところで「KAKEHASHI プロジェクト」は外務省から声がかかったのですか？

【赤対副校長】 国際交流基金と2, 3年間派遣を受け入れていた。その中で、相手側から応募しないかと勧められた。応募したところ採択されたので、今までの活動が評価されてのではないかと思う。

【京兼委員】 大学では当たり前のことだが、外国の大学との交流がほとんどない。これが残念だ。こういうことを含めて、もう少しスピード感をもってやってもらいたい。

【赤対副校長】 この2年間に、オタゴポリテクニクと台北城市科技大学との協定がなされており、最近、具体的に派遣計画を立てたのだが、オタゴでは、エア―ニュージーランドが関空から撤退したので渡航費用や渡航時間に支障がでてきている状態だ。留学生の受け入れに関して本校は50年間閉鎖してきた状態だ。神戸市立の関係で実現できないとかいろいろあるのだが、各クラスに留学生を2~3人入れていけば一気に国際化は進んでいくと思うので、来年度からセンター化してなんとかそういう方向にもっていきたい。

【太田委員長】 時間がたいぶオーバーしてそろそろ委員会を閉じないといけないんですが、これだけはあとと言いつつ残したとう委員の先生方いらっしゃいましたら、意見をお願いします。あるいは、総括的なご意見でも結構です。

【沖村委員】 外部評価の目的は、評価を受ける側がこういうことをやりたいという目的があって、それに対してそのプロポーザルをやっていって、こういう外部評価の先生方にそのプロポーザルの評価をしてもらい、次に、神戸高専では教育委員会、我々の場合だと文科省に対してだが、この外部評価を活用していく、という方法がある。将来計画委員会がPDCAの中で、actionの中に入っているとのこと。外部評価に一回りしないと戻ってこないという形にもなる。もう少しこういうことをやりたいというプロジェクトがあるのなら、積極的にこの中に出して、外部の先生方の意見を伺う、という形にもっていかれると、より将来的な話ができるのではないか。ここでは、そういう将来的な話がまったく出てこないの、こういう形を取られるといいと思う。

神戸市教育委員会という存在についてだが、その特徴をもう少し生かされないのか。市の教育委員会の管轄だからこそ、こういうことができるのだ、というような特徴をもっと出されてはどうか。

【京兼委員】 在り方委員会を教育委員会で実施したが、そこでの答申をもし将来計画委員会に入れておれば、もう少し分かりやすかったのではないか。在り方委員会の答申に対する将来計画はどうなっていますか。

【伊藤校長】 将来計画委員会では、メンバーが拡大された形で、あり方委員会から頂いた提言はもちろん議論しているところだ。その提言が膨大で多岐に渡っているの、ある程度絞って、現在は、グローバル化に向けてどう進んでいくか、また、女子学生を増やすことについてどう取り組むかを小さなチームで議論を重ねていっている。提言を実現するために、ひとつひとつステップを踏んでいる状況だ。確かに、こういう形でいうものを持って、先生方にご意見を頂くというやり方、考え方もあるのかな、とアドバイスを頂いて思った次第です。

【大村先生】 自己評価書に書かれている改善事項に関して、ぜひ具体的なアクションプログラムを

作って頂きたい。改善する必要があるとは書かれているのだが、そこに、これからどう改善していくのかという道筋を考えるべきだ。それは遠いかもしれないがぜひやって頂きたい。繰り返しになるが、この外部評価委員会の提言をうまく使って、神戸市に働きかけて頂きたい。安全衛生然り、単に評価で終わらすのではなく、神戸市に対して、こういう風に言われていますよ、という形で使って頂きたい、という思いである。

【太田委員長】 今回の自己評価書というのは、まさに自己評価というところに視点が置かれて作られており、本日の外部評価委員の意見を受けてさらに今度どういう風に展開していくか、ということをご検討頂くことが必要だ、というのが委員の先生方の意見である。

今日のさまざまな意見を参考にして、神戸高専がさらに飛躍していくように将来計画を立てられることを期待したい。委員長の不手際で時間が25分ほど超過したがお許し頂いて、これで終了したいと思います。